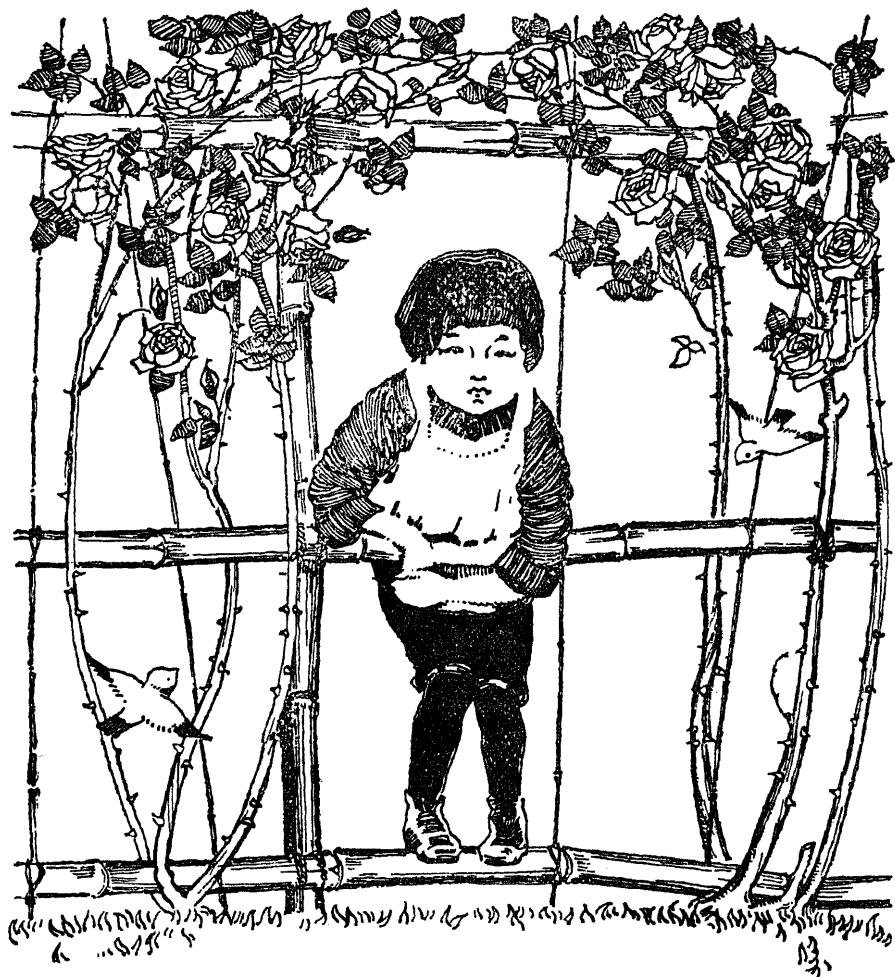


育教の兒幼

號五第 號月五 卷二十三第



內校學範師等高子女京東
會協園稚幼本日

奈良女高師教授 附屬幼稚園 森川正雄先生著

▲四六判四百餘頁 ▲定價金二圓八十錢
▲寫真挿繪入美本 ▲送料十八錢

幼稚園の經營

▲實際的保育方法を解説した新書
▲現代幼稚園經營の模範的指導書
▲保姆一人に必ず一冊必須の名著

保育上の實際問題は訓練要目保育要目を初め總てを詳述解決さる。
日本の實際的保育方法を究明詳述し更に歐米の新研究を配し完璧さす。
幼稚園及託兒所の實際的保育指針として保姆の必携すべき權威書。

三十一版 附屬幼稚園主事 森川正雄先生著
幼稚園の理論及實際 價三・〇〇 送〇・六

五版 附屬幼稚園主事 森川正雄先生著
用保姆教育學 價二・六〇 送〇・六

五版 奈良女高師教授 附屬幼稚園主事 森川正雄先生著
幼稚園教育法 價二・〇〇 送〇・六

五版 大阪毎日新聞編輯 橋詰良一先生著
家なき幼稚園の主張 價一・五〇 送〇・六

八版 東洋大學教授 關 寛之先生著
高等兒童心理學 價一・〇〇 送〇・六

最新刊 東京女高師教授 附屬幼稚園主事 堀 七藏先生著 價三・五〇 送〇・六

三版 京大教授 小西重直先生序、青木文子女士抄譯 價〇・五〇 送〇・六

三版 奈良女高師訓導 池田こぎく先生著 價三・〇〇 送〇・六

四版 奈良女高師教諭兼訓導 幾尾純先生著 價三・五〇 送〇・六

卅六版 東京女高師教授 文學博士 下田次郎先生著 各價三・〇〇 送〇・六

八版 東京女高師教授 文學博士 下田次郎先生著 各價三・〇〇 送〇・六

東大 東阪 東洋圖書株式會社發行

東京市神田區表神保町一〇番地 振替東京一〇三〇七番
大阪市南區安堂寺町一丁目二八番地 振替大阪三九五六番

昭和幼年唱歌

小松耕輔・梁田貞著
葛原茲先・共生著

清水良雄
畫伯裝釘

第一輯目次
園長先生
人參食へてる兎さん
猿はひつかく
鸚鵡のお家
蟲がはねた
ペンギン

第二輯目次
驢馬がにげる
野原はひろい
ワクノポリ
鐘を著たい
家鴨を數へませう
毬がつきたい

件定送
奏價料
附四各
美十二
本錢錢

昭和少年唱歌

小松耕輔・梁田貞著
葛原茲先・共生著

清水良雄
畫伯裝釘

第一輯目次
お宮とお寺
柿の種と握り飯
やねの上の雀
はまべの子
私の箱庭
ラヂオ體操

第二輯目次
お家にあかりがつきました
ベリカン
夕立やんで
牛と馬
めえく親山羊子供山羊
日暮山霧

件定送
奏價料
附四合
美十二
本錢錢

廣島高師教諭 山本壽先生著
音樂教育の三大方面
繡判美裝函入
定價 四、五〇

小松、梁田、葛原先生著

文部省
認定 **小學歌曲選集**
四六倍判美裝
定價 一、二〇

小松耕輔先生著 自第一集至第三集
小松耕輔歌曲集
四六倍判美裝
定價 各五十錢

梁田貞先生著 自第一集至第五集
梁田貞歌曲
四六倍判美裝
定價 各五十錢

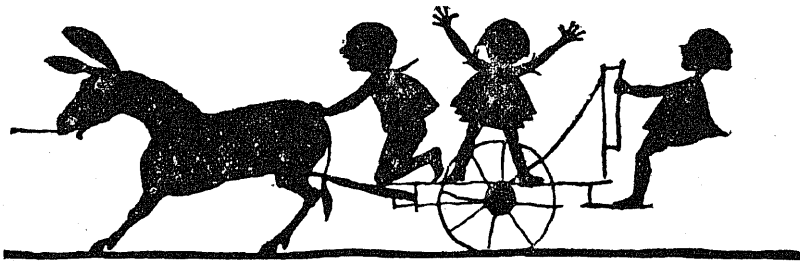
小松、葛原、梁田先生著

大正少年唱歌 合本
繡判クローズ製
定價 二圓五十錢

小松、葛原、梁田先生著

大正幼年唱歌 合本
繡判クローズ製
定價 二圓五十錢

東京市神田區 目黒書店發行 振替 二八〇番 東京



育教の兒幼 輯編會協園稚幼本日

會長 東京女子高等師範學校長 吉岡郷甫
 主幹 東京女子高等師範學校教授 附屬幼稚園主事 倉橋惣三

日本幼稚園協會規則

- 第一條 本會ハ幼児教育ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス
- 第二條 本會ハ日本幼稚園協會ト稱ス
- 第三條 會員タラントスルモノハ幼稚園ニ關係アルモノ又ハ幼児教育ニ篤志ナルモノトス
- 第四條 會員ハ會費トシテ一ヶ月金參拾五錢ヲ齎出スヘシ、會員ハ無料ニテ本會發行雜誌ノ配布ヲ受ケ又本會ノ事業ニ關シ諸種ノ便宜ヲ受ケ
- 第五條 令聞名望アル人ニシテ本會ノ事業ニ裨益アリト認ムルトキハ特ニ請ヒテ會員トナスコトアルヘシ
- 第六條 幼稚園ニ關係アルモノニシテ本會ノ事業ノ爲ニ特ニ盡力ヲ與ヘラル、モノニ請ヒテ地方委員トナスコトアルヘシ
- 第七條 本會ハ毎年一回總會ヲ開ク。但場合ニヨリ臨時休會スルコトヲ得
- 第八條 本會ハ左ノ事業ヲ行フ
 - 一、幼児教育ニ關スル研究及ヒ調査
 - 一、幼児教育ニ關スル講演會及ヒ講習會ノ開催
- 一、雜誌發行(毎月一回)
- 一、幼児教育ニ關スル圖書刊行
- 一、保姆就職及招聘ニ關スル仲介
- 一、其他本會ノ目的ニ裨益アリト認メタル事件

第九條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク

- 會長 一名 會務ヲ總理ス
- 主幹 一名 會長ヲ補佐シテ會務ヲ掌理ス
- 幹事 若干名 會長ノ指揮ヲ受ケ會務ヲ分掌ス
- 評議員 若干名 重要ナル事件ニ關シ會長ノ諮詢ニ應ス
- 第十條 會長ハ客員中ヨリ推薦スルモノトス
- 第十一條 主幹 幹事 評議員ハ二ケ年ヲ期シテ會長ヨリ推舉スルモノトス
- 第十二條 本會ハ必要ニ應シテニ委員ヲ設ケ又ハ書記ヲ雇入ル、コトアルヘシ
- 第十三條 本規則ハ總會出席會員ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルニアラサレハ變更スルコトヲ得ス



號五第 育教の兒幼 卷二十三第

—(次 目)—

| | | |
|------------------------|-------|--------------------|
| 口 繪 人形のお家・シカゴ師範大學附屬幼稚園 | | 倉橋惣三(一) |
| こゝろもち(卷頭言) | | 倉橋惣三(一) |
| フレーベルの生れた家 | | 倉橋惣三(二) |
| フレーベルを想ひながら | | ソフアヤ、アラベラ、アルウケン(三) |
| 幼児ミ數の問題 | | |
| 幼稚園に於ける數觀念の養成について | | 坂内ミツ(二四) |
| 幼児の數觀念の發達 | | 岩下喜衛(二〇) |
| 基本教育としてのおはなし | | 大塚喜一(二七) |
| 幼兒にはこんな遊び場を與へたい | | 井下清(三五) |
| コドモカルタから幼兒唱歌(2) | | 葛原しげる(元) |
| 世界人形行脚記(三) | | 高市次郎(四) |
| 人形のお家を中心として | | 菊地ふじの(四) |
| 保育そのまきく | | 倉橋惣三(五) |
| 花壇並に花壇用草花年中行事—五月 | | 富本光郎(六) |
| 園藝曆—五月 | | 大岩金(七) |
| 遊戯・オニゴッコ | | 土川五郎(七) |

東京女子高等
師範學校教授
内務省囑託

倉橋

惣
田

三先生共著
工先生

農繁託兒所の經營

保 育
トツレフバ
— 1 —

農 繁 託 兒 所 經 營 指 針 絕 好 針

定價 金 二 十 錢 郵 稅 二 錢

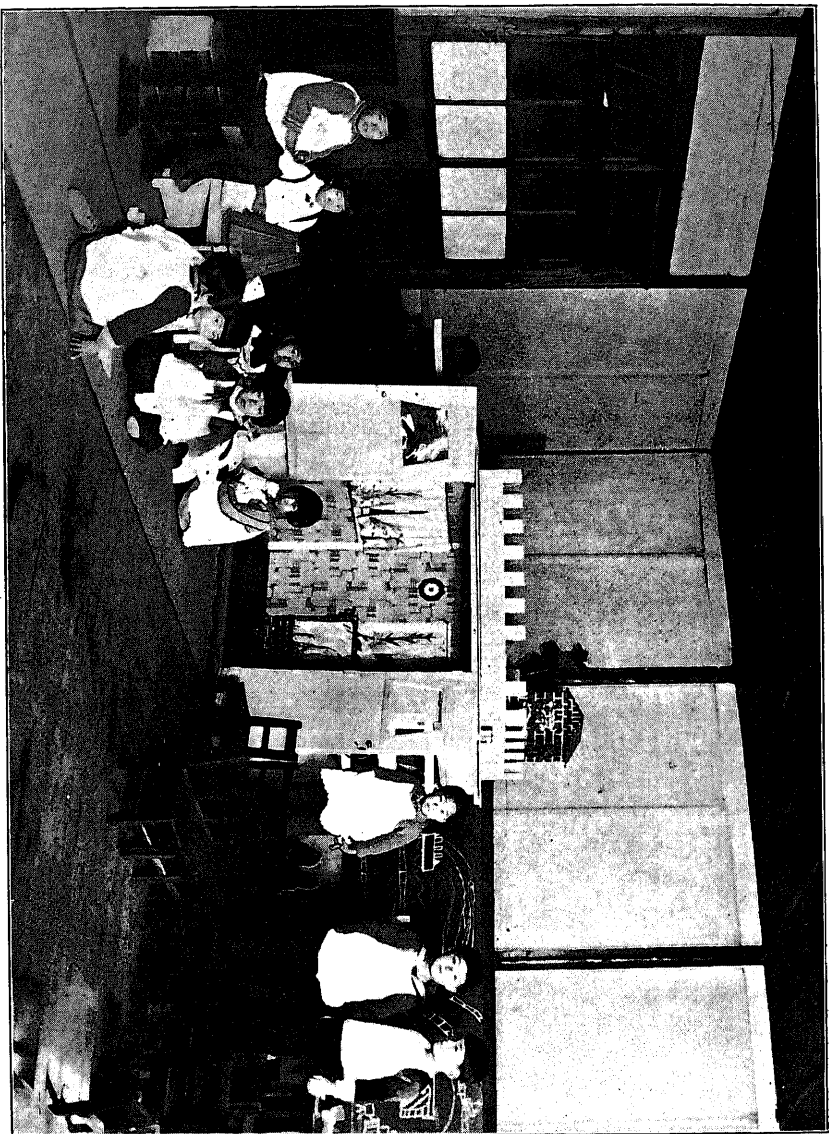
本書は農繁託兒所の經營及びその實際に就いて、兩先生が簡明的確に而かも極めて興味ある卑近の事例を擧げて各々其の意義、特質竝に經營の實際的指導等に互つて蘊蓄を披瀝し餘す所がない。蓋し宇宙の森羅萬象は悉く之を捉つて、以て直に幼兒に好觀察的保育教材たり得る事實の如き、農繁託兒所の本質と相俟つて、實際的保育及び經營に關聯する所頗る大。之を闡明し、手を舒べて指導するものは實に本書であります。敢て一讀をす、めす。

發行所

東京・神田・一ツ橋通
教育會館内

株式會社 フレーベル館

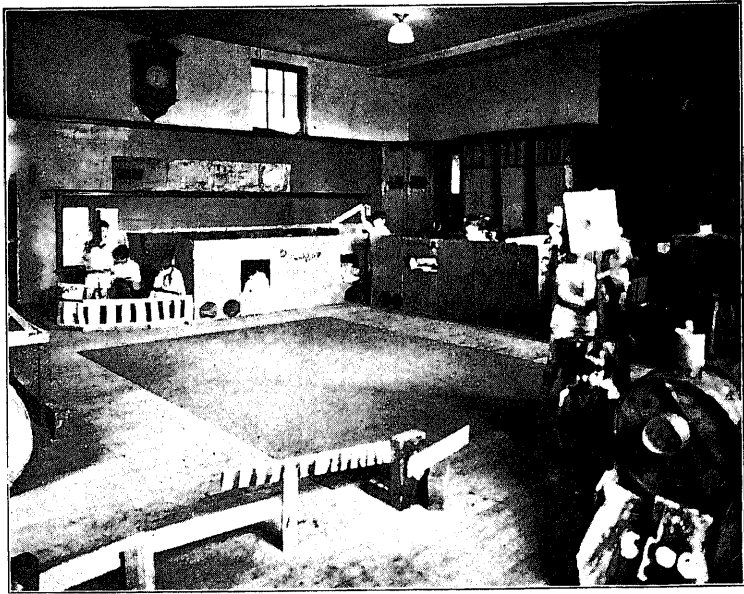
電話九段(33)(御註文専用)三八二七番



家 人 の 形 式



(一其) 園稚幼屬附學大範師ゴカシ



(二其) 上 同

幼 児 の 教 育

昭 和 七 年 五 月

こゝろもち

子どもは心もちに生きてゐる。その心もちを汲んで呉れる人、その心もちに觸れて呉れる人だけが、子どもにとつて、うれしい人、有り難い人である。

子どもの心もちは、極めてかすかに、極めて短い。濃い心もち、久しい心もちは、誰れでも見落さない。かすかにして短き心もちを見落さない人だけが、子どもと俱に、ゐる人である。

心もちは心もちである。その原因、理由とは別のことである。況してや、その結果とは切り離されることである。多くの人が、原因や理由をたづねて、今の心もちを共感して呉れない。結果がどうなるかを問ふて、今の、此の、心もちを諒察して呉れない。殊に先生といふ人がさうだ。

なかには、子どもの心もちが分つてゐながら、それを壓しついたり、踏みについたりして平氣の人がゐる。殊に、教育の名に於て、屢々それが行はれる。それで、教育は子どもを愛し、子どもを尊重してゐるのだといふ。

しかし、子どもの心もちを無視して、何を愛してゐるといふのだ。心もちを尊重されないで、何でその子が尊重されてゐるのだ。

その子の今の心もちにのみ、今のその子がある。

フレールベルの生れた家

—フレールベル誕生百五十年記念會講演—

倉 橋 惣 三

今日は只今堀教授からお話のありましたやうに一昨日即ち二十一日記念致す可きを今日に延期致したわけであります。年々のフレールベル誕生日は全國でそれ／＼種々の記念の集りが催されますが、わけても本年は百五十年でありますから、さぞかし盛な記念會が世界各地に催されて居るでせうと思ひます。未だその詳しい様子を知る機會を持ちませんけれども、私の知る所では、フレールベルの始めて幼稚園をつくつたブランケンブルヒに於きまして、先月の廿九日から此の二日迄、最も盛なる五十年記念會が催されて居ります。本日のごゝの會は一日後れて居りますが、ブランケンブルヒのは大變先に急いで行はれて居ります。思ふに、各地に於いて廿一日を中心に會を致しませうから其處から集

る人の爲に、わざとその日を避けて早く行つたものでありませう。廿九日から二日までの日は、午前、午後、夜、とぎつしり種々の催しが行はれます。特に獨逸のフレールベルに關する錚々たる學者が適當な講演をされて居ります。いろいろの題目がありますけれども、要するにフレールベルの偉大さを禮讚し、偲ぶものであります。その中の一日、三十一日であります。特にフレールベルの生れたオーベルワイスバツハの教會でお祭のやうなものが行はれます。それからブランケンブルヒのフレールベルの始めて建てた幼稚園で、子供達の集りがあります。又、夕方からは、各地から集つた人が特にフレールベルの夕としての晩餐會を致します。晩餐會に講演にお祭に、實に盛な會を致しました。お互も、も少

し近いならば、ブランケンブルヒに出席したいと思ひますが、それでは此方の會に間に合ひませんから、心の中で思ひ、心の中で割愛しました。由緒深い土地で行はれるのでありますから百五十年の會としては最深い記念會であります。我國に於きましても、この機會においてそれ／＼の方面の方と一緒に盛大に記念會を擧げたい、擧げべきと感じも致しましたが、その準備も整はなかつた爲と、やがてフレーベル先生の所謂百年祭がまゐります。百五十年が先に來て百年が後に來るのは變なことであります。偉人を偲ぶのは大體亡くなつた年から數へます。今年のゲーテ百年祭も亡くなつた年から數へてゐあります。外國の雜誌などにも一九三二年にはゲーテ百年祭とフレーベル百五十年祭ありと出て居りますが、一方は生れた時から數へ一方は亡くなつた年から數へてゐる譯であります。よつぽど頭がよくなければチュウブランになります。そこで、そのフレーベル百年祭がやがてまゐりましたら、その時こそ皆さんと大いに準備して、世界に負けない會を御一緒に擧げたいと今から考へて居ります。それで記念すべき百五十年はさ

ゝやかな記念講演會だけになり、ブランケンブルヒでやりましたやうに、式典も子供の集りも、又特に今晚は晚餐を差上げる用意ありません。御銘々御自宅でフレーベル先生を偲びながら各個晚餐をやつて戴きたい。但、記念講演會であります。今日のは普通の講演會とは違ひます。私とアルウキン先生は話をする役、皆さんはお聴きになる役、堀さんは全體を司會する役、といふのでなく、フレーベル先生の寫眞を中心にして、私は口で、皆さんは耳で、でなく全衆心を一にして、フレーベル先生を偲び、又尊敬致して居るのであります。左様な性質の會であることを特に申上げておきます。

○

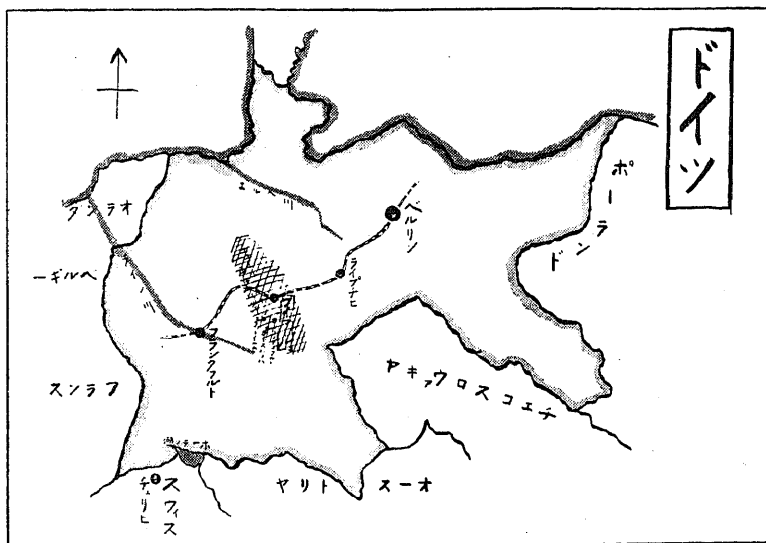
私は如何にして今日の百五十年記念日を語るべきか思ふ可きかを考へました。いろ／＼な、偲び方があると思ひます。私に若し音樂的技能有るなら、こゝに立つて、——おゝフレーベル、フレーベル——と謳ひたいと思ひます。さうしますと皆さんがこれに合唱して、バラツク講堂もフルヘ、ベルといふことになりませう。心持はそんな所に

ありますが、私としては散文的な話をする他ありません。

しかも散文的な話としてのフレイベルの傳記は皆さんよく御承知であり、私も機會ある毎にうるさく申上げて來ました。フレイベルの學説を叙するとなると、平生は少し位間違つたことも平氣で言ひますが、今日間違つた事を言ひますと後の祟りよりも今の祟りが恐ろしい。此の上のフレイベル先生の額が飛び落ちて、私はまたガクゼン（愕然）とさせられることになりませう。さういふ風な險呑な痴しいことをさけて、私は、生誕記念であるから生れた所の事を語り、私の事だからつひ脱線するといふところ或は話がこぼれるといふことになるかも知れませんが、主題は『フレイベルの生れた家』として、お話申上げます。アルウキン先生が御出でになりましたなら、この方こそフレイベル先生の妹御さんの様な方でありませうから、フレイベル先生の心もちに入つたことはアルウキン先生にお願ひしたいと思ひます。で私のは、所感といふよりも、事實の話でありませうから、斯様に地圖や繪葉書を貼り並べて、私の話をそれ
で補ふことにしたのであります。

○

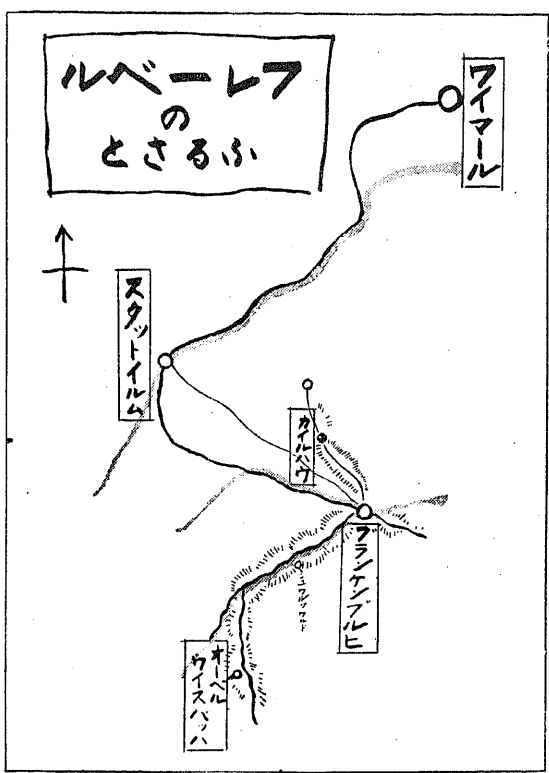
フレイベル先生の生れたオーベルワイスバツハはドイツ全體の何邊にあるかを先づ知り度いと思ひます。大體の地形を申しますと、ドイツの中心ベルリンは大體ドイツの北の方に在ります。ベルリンからは實に澤山の鐵道が出て居りますが、其の一つでライプチヒを通り、ワイマールに到ります。ワイマールは皆さん御承知の様にゲーテのためにゆかり深い地でありまして、ゲーテ百年祭としてはワイマールに於いて盛な會が行はれました。そのワイマール地方はチュウリンギヤ森林地帯といふ名稱になつて居ります。大體土地其のものが高くなつて居て、奥深い森林地であります。そのワイマールから本線を離れて、別の線の汽車で行くと、ブランケンブルヒであります。そこから山に入りましたのが、ワイスバツハであります。ワイスバツハには下ワイスバツハと上ワイスバツハとありますが、上ワイスバツハが先生の生れた土地であります。私は矢張りワイマールの方から參りましたが若しも他から行くならばワイマールを経ずして、直接に行く道もないではありません



んが便利な道は此の方になります。

私は一九二一年一月の初めに大學の休暇を利用して参つたのでありますが、最も寒い時でして、道としてはブランケンブルヒから参りましたが、そのブランケンブルヒからオーベルワイスバツハには、汽車もない電車も通つてゐない、乗合といふやうな交通機關もない、丁度今から二三十年前の木曾街道の様な状態の處でありました。その邊全體の土地はドイツではシュワルツタール（黒谷）と云つて居ります。又その邊の森の事をシュワルツワルド（黒森）と云つて居ります。黒いといふのは、緑以上に奥深いからであります。そこは一種の景勝地であります。フレイベル先生を慕ふ人でなくとも幽邃を慕ふ人は参りますが、一月の寒い時節には、餘程のものづきか信仰家でなくては参りません。私はフレイベル先生信仰で参りました。馬車を仕立てまして、森林に取り巻かれた細い道を上つたり下つたりして参りました。谷間の溪谷美は實にきれいでした。その時は冬ですから、一切が氷を懸けて一段の美しさでした。ブランケンブルヒから、上つたり下つたりしながら

ら段々高くなつてオーベルweisバツハに着きます。オーベル即ち上と云つてあるとほり高原であります。極く小さい村であります。その景色は口で描寫出来ませんが、所謂



高原の氣さわやかな土地であります。オーベルweisバツハに入りましてから直きに中央廣場に出ます。其の左側、即ちフランケンブルヒの方から來て左側にフレーベル先生

の生れた家があるのであります。小さな一軒建であります。先生の居られたそのものが残つて居りますので大いに古びて居ります。只今は其家に牧師さんが住まつて居りまして私は不慮に家の中に入つて見せていただきました。其の牧師さんは餘りフレーベルに深い研究を持たない方のやうでした。興味は持たないでせうが、研究的興味では無いと見え、いろ

く話が聞かれやうと思つてまゐつた豫想に反し餘りお話がなく僅かにフレーベルの書かれた手紙のやうなものが仕舞つてあるのを見せてもらひました。

○ 家の形は大體左様に御承知していただきます。その淋しいオーベルweisバツハの山中で百五十年前の一昨日、矢張りフレーベル先生もオギアと泣いてお生れになりました。そこで、家の事を話しましたからそのお生れになつてから暫くの子供時代の事を話しますと、お父さんは牧師さんでフレーベル自身の書く所に

よると相當に忙しい、厳しいお父さんのやうでありました。村全體の人の爲に忙しいので家族の爲に家で親しむ間もない。當時の神學の考も相當に厳しいもので、何方かといへばこわいお父さんでありました。フレイベルはお父さんの恩は感じて居りましたが、父親に對する親しみは極く薄く終生本當の親しみを持たなかつた、といふ意味に取れる言葉を使つて居られます。殊に氣の毒なのは生後九ヶ月の時生母が亡くなりました。そこで一切の世話は召使がするようになり、一緒に暮すのは兄さん達になりました。この表に擧げてありますやうにフレイベルは五人兄弟の末子で、しかも姉妹は無かつたのであります。その兄さん達の中に一緒に暮して來ましたので、親から所謂慈味溢るゝ許りに可愛いがられるとか、或は同じやうな年齢の子供同仕で遊ぶといふことはありませんでした。それをフレイベル自身も種々に思つて居りますが、我々もフレイベルを偲ぶ今日誠に淋しい事に思ひます。四歳になつた時に第二のお母さんが來ました。フレイベルは非常にこれを喜びました。母に飢へて居る子供の心としてよろこびました。それから

暫く母の幸福を味ふ事が出來ましたが、やがてお母さんはカールポポといふ御自身のお子さんを生みました。それから先を私が解釋を下すと種々とむつかしくなりますから事實だけ申しますが、フレイベル自身の言つてゐる所では、お母さんとフレイベルの親しみは一日一日と減つて行く。母は自分の生んだ子供の方へ親しんだとあります。つまり母といふものに恵まれなかつたのであります。斯うなりましたのはお母さんが悪いのではなかつた、フレイベルが悪かつたのかも知れませんが、兎に角く母の愛を満喫出來ませんでした。のみならず、お父さんの嫉が厳しかつたのであります。一方で厳しくても一方がやさしければよろしいのですけれども。それでフレイベルは非常なやんちゃ者、暴れ者に見られました。その上に、私もその家の實地を見て十分調べることが出來ましたが、左様なよい土地にあるに關らず、家そのものは周圍の建物でとり圍まれて居ります。前は教會、後は岡、左右は家です。家の外に出て遊べば廣いのであります。厳格なお父さんでありますから、外に一步も出しません。フレイベルは僅かに、清らかでは

あるが、狭い青い空と、垣越しに吹く風を楽しみました。お母さんに甘へることもせず、お父さんには始終は會ひもせず、年長の兄とだけ遊んで友達とは交渉はなし、それで云はゞ頗る快活ならざる子供になつてしまひました。フレールベルの言葉で申すと、人と交るよりも窮屈なる自然と交るばかりであつたのです。その爲に、フレールベルの生活は外に放散することなしに内へ／＼向つて行きました。殊に後になつてあの教育思想を生んだ程ですから、生來の天才的なものが、一層、内へ／＼と向けた事もありませうが、陰氣な沈んだ物思ひに耽ける、とんと可愛氣ない子供になつてしまつたらしいのです。一人で居れば子供のくせに考へ込み、遊べばいたづらになる、家の中では慊はれ者になつてしまひました。フレールベル自身でもどうも面白くないので、家を出て行きたい、我が家に居づらひ氣持になつたと書いて居ります。丁度十歳の時母方の伯父が訪ねて來ました。今日の我々のなかにもある如く、どうもあの子は可哀いさうなことだ、と、遠慮しつゝ訪ねて來て、様子を見取り、父と相談して引き取りませうといふことになりまし

た。そして引き取られて行きました。これが嚴密に云つて十歳と九ヶ月、その伯父さんの家はスタットイルムといふ所で、オーベルワイスパツハよりも當時に於いては賑やかな所でありました。スタットイルムに於けるフレールベルの生活といふものは、自分の家とは打つて變つた生活で、我家で得られなかつたものが得られました。かうした全境遇そのものが幸福か否かは分りませんが、兎に角く子供として、毎日幸福でありました。伯父さんも矢張り奥さんを亡くした方で、年取つた義理のお母さんと暮して居りました。その家庭はフレールベルのお父さんと違ひ、實にやはらか味、温か味のあるものでした。それで子供としての命は一ぱいに發揮されたとは彼自身の言葉であります。こゝで外に出て遊ぶのを許され、近所の小川へ山へと廣い自然に接し、又家に歸ればやさしい伯父さんがやさしくして呉れました。しかも伯父さんは牧師でありましたから、楽しい子供らしさを基礎として、宗教といふものが與へられました。自分の家ではピリ／＼した中で宗教を教へられたのでありますが、こゝでは子供らしい生活の中で、宗教感化を與へ

られました。伯父さんはお父さんのやうな活動家といふよりも、静かな生活をして居た人でありましたから、思想生活といふものも學びました。宗教的なこと、子供らしいこと、そして考へるといふ事は、フリーベルの全生涯に於て其の一大特色をなして居りますが、これはスタッツイルムに於いて育てられたと考へられます。即ちフリーベルを生み出したのは、オーベルワイスバツハ、フリーベルを育てましたのはスタッツイルムであると言つていゝでせう。スタッツイルムは只今相當に盛な土地になつて居ります。此の伯父さんの家を探しましたが、見當りませんでした。併しフリーベルのライフに於いては左様な重要な地位を持つて居ります。話がまざりますが今日はフリーベルの子供時代だけをお話し致しますので、大きくなられての思想方面はアルウキン先生に願ふことに考へて居りますが、御承知の様に、二十三歳の時フランクフルトで教育に志して、ペスタロツチ先生に學んで、自分の故郷に歸り教育に従事しました時に、先づ子供に觸れましたのは、幼稚園でなく、又學校でなく、家庭教師でありました。二番目の兄クリス

トフに三人の子供があり、これを先づ育てたのが教育實習の始めで、それが此スタッツイルムのグリースハイムでしたから、フリーベルの教育の心を育てたのも矢張りこのスタッツイルムであつたのは非常に面白い事だと思ひます。

○

こゝに四五年餘り居て家に歸りました。その間にチョコクチョコ歸つて居ります。『やはり自分の家は楽しい』と云つて居りますが、もよりの事と思ひます。歸りました時は十四歳餘りになつて居りました。家には何しろ子供が多いし、兄さん達は勉強して居りますので、お父さんはフリーベルに大して正式の學問を勉強させる氣は無かつたやうでした。フリーベルを前にして、何に成らせるかの話がありました。其の中の一はオーベルワイスバツハの役場の書記にいれようと話が進みましたが、斯んな若い書記があるものかといふので、止めになりました。その次にお母さんの言ひ出した方も止めになりました。その時役場の書記になつて居りましたら、その生涯はどう變りましたらうか。私は殆んど變つた事になりましたらうと推定致します。が

とう／＼の道もつかないので、フレイベルの希望に任されることになりました。ところが、その時十五歳のフレイベルは巖藝家になりたいと望みました。とに角、書記や先生でなく、園藝の方へ行きたいと申しました。私は何故園藝に行き度いか。園藝そのものが好きだから、山が好き、野が好き、森が好き、だからといふ理由です。そこでお父さんは好きなことをしたがよいといつた工合で、口を探して呉れて、或る大きな園藝家の所に二ヶ年の約束で、奉公ではありませんが見習に入りました。その二年間は明らかに云へば、極端な意味でいへば、植木屋の小僧のやうなものです。併しフレイベルは實に面白く仕事をしたのであります。二年の年期が済みまして家に歸りました。親方はこれからのものになるからもう少し留めて置かふといふ考もありましたのに、フレイベルが勝手に家へ歸つたに就てお父さんとの考の行きちがひもあつた様子で、何となく家が面白くなく、それで又家を飛び出さうとしました。餘程自分の家庭に恵まれない譯です。そして、丁度その時に、エナ大學に學んで居りますフラウゴツド兄さんに學資を持

つて行く使をお父さんからいひつかりました。皆さん御心配下さらぬように、先に申上げて置きますが、フレイベルは決してその金を持つて出奔はしませんでした。フレイベルは幼い時から兄さん達が、家庭を離れてゐるのをうらやましく思つて居りました。その兄さん、しかも一番話の合ふ直ぐ上の兄さんが居る、しかも有名なエナの大學に行けることはどんなに嬉しかつたでせう。それが丁度十五歳の夏の事でありまして、大學では夏の講義が始つた時で、フレイベルは直ぐに歸るべき所が、大學がとても好きになつて、兄さんも居てもよからうといつて、お父さんに御願ひの手紙を出して呉れました。そこにいろ／＼のいきさつもありましたが、夏をエナに過して大學の講義をかぢりました。なめた位だつたでせう。それから家に歸つて、今度は自ら熱心に、エナに入れて貰ふ様に歎願しました。段々話をして居る中に費用の道がつけば大學にやつてもいゝといふことになつて、母の遺産を管理人から渡して貰つて、それでエナ大學に入學しました。これが故郷を飛び出して學問の生活に入つた第一歩で、十七歳でありました。フレイ

ベルは、まことに青春激潮の時期をエナに過しました。従つて、こゝで種々の學課を學びましたけれども、どうも矢張り林や森や土が好きなものですから、職業としては林業の方に行く事になりました。

これから先の話は打ち切らうと思ひます。その林家が、ふとしたことから教育といふものに興味を持つやうになり、ペスタロッチに教を受け、カイルハウであの『人の教育』を著はし、ブランケンブルヒで幼稚園を創めた話は『教育者フレイベル』のお話になります。私の今日のお話は其の前の『子どもフレイベル』のお話であります。兎に角く、フレイベルはそんなわけでオーベルワイสบツハに生れ、人間の中といふより自然の中に育ち、自然を體得すると共に、いろんな事情で思想癖の性質になりました。『神のテンプルと自然のテンプル』といふやうのことを自分で云つて居ります。之れは此の十五歳位迄のライフから當然歸納されるものであります。そして、それを教育に打ち込んで幼稚園の創設者になつた事は誠に意味深いものと思ひます。私は丁度フレイベル生れて百五十年と三日目

の今日、此の大教育者の子ども時代を深い思ひ、なつかしい思ひで偲ばしく思ふのであります。

(昭和七年四月二十三日筆記)

本會主催

フレイベル誕生百年記念講演會

豫報のとほり四月二十三日午後一時半より、誕生百年の四月二十一日を記念する講演會は東京女子高等師範學校講堂に開催。花輪にて飾られたフ氏肖像の額の下に會集數百名の盛會であつた。堀前主幹の司會にて、倉橋主幹は『フレイベルの生れた家』と題して往年彼の生地を親しく訪ねられた感懷をたどり、子供時代のフレイベルを偲ばれ、次に、フ氏の精神を現代的に最もよく理解し、その最も熱心なる實驗者體驗者なるアルウキン女史は、特に本記念會のために病中をおして壇上に起ち、熱烈な讚美を以て教育者フレイベルを語られた。

フレイベルを想ひながら

一一

玉成保姆養成所

ソフアヤ・アラベラ・アルウキン

今日の此のお目出い日に私のやうなものが話させていた

ゞく事はたゞ皆様にお禮を申上げるより外に言葉はございません。私はあの十の恩物十の特技を考へて神様からのたまものと思つて子供に下さつたフレイベルを思ふ時、なんといふ親切な考へ深い子供をよく教育しようと努力したおちさんであつたかと、たゞもう懐しくてたまりません。

十七年の間フレイベルの残して行つた玩具(恩物)を子供につかはせて、その大した結果を見てゐる私は、皆様にも、もつと、もつと研究していただきたい、用ひて行つて、そのたいしたさを解つていただきたいと存じます。流れを見てもフレイベルはそこに神のさゝやきを聞きました。山を前にして、フレイベルは私達に高くのぼれとひきあげて

下さいます。

廣い林の中で子供と一緒に木の實を拾つては枯にさしたり葉のおちてゐるのをつないで軸と軸とをくみ合せたり、土でお山をこしらへたり、家を建てゝゐる所から子供と一緒に木片をもらつてきて積木をしたり、自然が與へる豊富な材料で心のゆくばかり、朝は太陽と一緒に夜はゆめにまで子供のお友達でいらつしやいました。

なんと懐しい方でせう。あゝあゝ今もフレイベルはこゝにおいでになります。さうして私達が今フレイベルを偲ばうとして居る事をどんなに感じて居られるでせう。私達にもつと、もつと立派な人になれ立派な子供のお友達になれと手をのばしてさし示していらつしやいます。私達はどうか

したらよいのでせう。幼稚園を生んで下さつたフレイベルの意志、その深い深い所までわかつてお残り下さつた、多くの賜をもとにして、新しい教育へと進むのが一番フレイベルを喜ばせる事だと存じます。フレイベルはどの位子供を思つたでせう。さうして始終一緒に遊んだでせう。その時に澤山の教材を発見したのです。神様から教へていたのです。

私達も、もつともつと子供と遊びませう。フレイベルが總べてのものゝ中に神の存在を見て、何でも尊び、それを深く感じよう、視よう、知らう、味ははうとしたのは、百年も後の現在、今私達が自然觀察と言つてゐる事の過去であつたと思ひます。何と永い先に行つてまでも、役立てられる深いものを下さつた方でせう。「母と子の遊戯」を思つてもフレイベルにお禮を言はずには居られません。子供とお母様とが誰からもおそはらないで、自然にどこの國どこの家庭でも遊ぶあの四十八の遊戯、そのすべてが、生れた時から大人になつても、遊べばよい人になれるものばかりでございます。

自分を自然に導いてくれる澤山のあの遊戯は、大勢からたつた今知られてゐないと存じます、それでジャパンキングダーガーデンユニオンでこんど芽野儀太郎先生にドイツ語から日本語に譯していただいて岩波から出す事にきまつて進行中でございます。倉橋先生にも始終御相談のつていただいて、近い將來皆様に愛讀されるものと存じます。

かうして私達は出來得る限りフレイベルの殘して下さつたものを學んで行きたく、努力してまゐりたく存じます。今もの言ふが如くこゝに一緒によるこんでいらつしやるフレイベルの誕生のお祝ひの今日、私達は野の草と話の出來る人になりたいと存じます。池の蛙と遊べる人になれませうか、おどつてゐる蝶や蜂と喜ばしい廣い世界を舞つてゐるでせうか。高い雲の中まで飛んで行く雲雀と一緒の思ひに我をすひあげられてゐるでせうか、燕は何のお話をしてくれてゐるでせう。いろ／＼な歌をうたつてゐる。かうしてうれしい今日、皆様のはれやかなお顔を見ながら、なつかしいフレイベルを御一緒に祝はせていたゞいた事を無上の喜びとお禮を申し上げます。

(筆記)

幼児と数の問題

幼稚園に於ける數觀念の養成について

東京市本郷區大和郷幼稚園 坂 内 ミ ツ

學令前に取扱ふ數の範圍

教育上の學説は科學的に心理學的に説明された事でなければ肯定する事は出来ないが、數の範圍に關しては今日尙確たる説をきかないやうである、この事について最もよく研究して居らるゝ小學校に於てさへ、學令に達した入學前の兒童を調査され又は期待さるゝにあたり、競争のはげしい各附屬小學校と多くの公立小學校とを問はず學校によつて數の範圍が一定して居ないのを見ても證據立てられると思ふ。

けれども尋一の教科が20までの數の取扱と限定されてある以上、それ以上に出る必要はない、又それ以上に出る事は幼児の發達に適さないに相違ない、實際家の經驗から見れば幼稚園では量及數の觀念を明かにして興味を起させ後日の基礎を確實にするのであるから日常生活の内に量及數を取扱ふ機會を多く與へ、學令に達する頃迄に20以下の數へ方、10以下の逆の數へ方、10以下の加減乗除が明確に計算されるやうになり、時に100位迄の數へ方をする機會をつくるに止まるではないかと思はれる。

量の觀念と數の觀念

其何れが先きに發達するかは議論のある處であるが莫然たる量の觀念が先きに發達するものと思ふ。物の大小、長短等は小さい時から比較する。羊羹を分けて貰う時に左右を見比べて大きい方をとるのは本能かも知れぬが大小の比較が出来るからである。數の方はそれよりおそい。満四歳でも10までの數へ方が正確に行かぬ人が多い。空には數へ得ても實物にあたるとしどろもどろになる。加減に至つてはなか／＼困雜である。然るに幼稚園とは數を取扱ふ場合よりも量を取扱ふ場合が少ないではあるまいか。モンテッソリー氏の恩物の内には量に關するものが多くあるが、強ち之を使用させずとも一寸注意すれば量を取扱ふ機會はいくちもあると思ふ。基礎の基礎をつくる時代であるから先づ量の觀念を明瞭にさせねばならぬと思ふ。

興味を起させよ

毎日生活して行く内に其機會を得る事が澤山ある。「先生僕の椅子が見えない」といふ子供にはそこに列んでる三つの内一番低いのがあなたのですよ比べてごらんなさいといつて比べさせたり、もう其積木を片づけて下さい大きいのはこの箱に小さいのはその箱にといふやうに量や數とはなれては生活する事が出来ない。けれどもこれだけでは興味が起らない上にどの子供にもと注意する事は其煩に堪へない。そこで特別に機會をつくつて實測させる事がよい。子供同志或は先生と子供と丈比べをさせる事などは最も妙である、其他六色の色鉛筆を長さの順に列べて仕舞はせたり、お隣同志同色の鉛筆の長さを比べさせたり、石ころの重さを比較させたり、遊戯室やお庭の廣さの全體を測るに歩數を數へさせたり、實測する前に目測させて當てごとさせたり、遊びのうちに面白く會得させる事が出来る、數の練習とするにもはじめは數へる

事よりも興味を本意にし數へないで居られなくなつて數へるといふやうにしたい。お伽噺をしながら數を取扱ふが最も面白。一二の例を擧げるならば、

昨夜風が吹いたので太郎さんは朝早く起きて裏のお山に行きました、キツト栗が落ちて居るに相違ないと思つて木の下にかけて行きましたらこんな大きな栗が落ちておました。あそこにもある。あそこにもある。と拾つて籠の内に入れました、其内風が吹いて來たらバラ／＼と又落ちたのでニコ／＼して籠に入れました。大分拾つたからもう幼稚園に行きませう歸つたら又拾ひに來よう、と思つて栗のはいつた籠を臺所において幼稚園に行きました、そうすると天井裏の鼠が耳をすましてましたが、太郎さんの聲がしない、もう幼稚園にいらつしやつたな、女中さんは——お洗濯だ、よし一つお臺所をのぞいて來ようとお鼠が出かけて來ました。さつきの栗が置いてあるので大喜び、一つづつ持つて行きました。栗を二つ消す。お友達のお鼠が見てそんなおもしろいご馳走があるのか僕等も一つご馳走になりませうと連れ立つて出かけました、どの鼠もどの鼠もをかうへて大喜び運んで行かうとしますと、よい氣持で日向ぼつこをして居た鼠がニアと大きなあくびをしたので其聲に驚いて鼠はみんな逃げていつてしまひました。

ゆふべの十五夜はよいお月でしたね、先生のうちではおだんごを供へました、先生がお姉さんが小さい姉さんがおばあ様が。つくりました。それをこんなに列べて供へました。そのわきには果物を供へました。十五夜ですから十五あげたのです。何を上げませうね、と子供のいふものから板畫する等、満四歳位でも數へる人もあり、ぼんやりして居る人もあるが此時代には數へないでも先生の數へるのに興味を持たばよいと思ふ。

又、皆さんの朝顔がよく咲きました一つ數へて見ませう。一つ咲いた鉢はこゝに一列に列べなさい、二つ咲いたのはこゝに、三つ咲いたのは其お隣りに列べなさい、と鉢を運ばせる、僕のは二つ誰さんのは一つと大にぎやかに運ぶ、一つしか咲かないのは幾鉢、二つ咲いたのは幾鉢、お花の數はといひながら先生が先きに立つて面白がつて數へて見せると子供も

つり込まれて興味を持つて數へるやうになる。僕のは一つしか咲かないが先生あしたは二つ咲きますなど、觀察も充分に自然にさせながら數へさせる事が出来る。

其他毬拾ひをさせるにも白を二つ紅を一つ、白を二つ紅を二つといふやうに數に注意させたり、ブランコを押して上げるにも10まで漕いで上げる等數を多く使用するが、數へる事は第二で興味を起させる事を第一とする、年少組は此時代であると思ふ。

實物について數へさせよ

數へる事について興味が起つたならば實物について數へる機會を多くつくるのである、年少組の終りから年長組の第一學期は主として其時期である。

第一に手の指を屈して10まで、次に20までを繰り返して數へさせる。指の屈伸を兼ねて手輕に何時でも何處でも實行される。そうして5の系列を頭にしみ込ませるやうにしたい、次に手當り次第實物を數へさせる。出席人員の數、バスケットの數、子供の拾つたドングリや石ころの數等を極めて自然に數へさせ度い。實物では碁石、キンヤゴ、オハジキ木の實等と各兒に20以下づつ持たせいろく排べさせたり、數へさせたりする、サイコロを二つづつ持たせ振つて出た二つの數については面白く加減が出来る、此時も5の系列を忘れてはいけない。又大勢を一緒にして相手をする時には黑板を利用する事、名數計算器を利用する事がよい、前述のお月見の話をしたがら○を書くにも此度は數へさせる事に重きをおけばお伽噺をしたがら充分に加減乗除がさせられる。

次第に進んで來れば加法に於ては一方の數は頭において他方の數をそれに足して數へるやうにしないと計算が早く出來なくなる。例へば一花子さんが幼稚園から歸つたらお母さまがおやつにみかんを二つ下さいました。そこへお隣のおば

様がいらして（あ）（あ）（あ）「下さいました」と黒板にかく内には子供は一つ二つと數へはじめる、其時に全部を數へるのでなくはじめの二つは覺えておいて五つの方を三つ四つ五つと指して數へるやうに習慣をつけ度い、尙進んでは大きい方の數を記憶しておいて小さい方を指して數へるやうにしたい。

色の觀念と數の觀念を明かにさせる爲に、色別に○○○○○○○○或は○○○○○○○○と畫かせたり、貼り紙をさせたり、○を畫いておいて塗らせたりするのも面白い、一方に注意を集中させる事も出来る。

又赤○を10ヶ、緑の□を7ヶ、紫の△を5ヶといふやうに注文してかゝせる事も大に喜ぶ事である上に、各個人の力を明かに觀察する事が出来る。

保姫が自由に繪を書き得る事は數へさせる上に最も必要な條件である。尙繪心の必要は情緒教養の上に必要なばかりでなく、あらゆる方面に無くてならぬものである。若し不幸にしてすらく書く事の出来ない人は名數計算器を代用するのが早道である。これはたゞ名數を教へるに用ひられるばかりでなく、お伽噺をするにも、觀察力の養成にも利用される事が多い、これについては別に研究して見度いと思ふ。

實物とはなれて數へさせよ

修了間際の頃には實物をはなれて計算する習慣をつけ度い、指を使つて計算する習慣がついしまへばそれを止す事が極めて困難である。一年生になつても机の下で指が使はねば計算出来ないやうになるから、はじめから用ひない方がよい、それには氣長にして簡単なことを繰り返すがよい。徒らに大きい數を取扱はせるよりは10以下が確實に迅速に計算されるやうに、無名數で繰り返し繰り返し練習する方がよい。そうして時々其正否を正すために實物又は繪によつて數へさせ自信をかたくさせる事は、正しく計算した人に對しても、計算し得なかつた人に對しても親切な事である。

此頃になれば10937と逆に數へる事も出来ねばならぬ、進んで居る人は20以下の逆數でも數へ得るものである。無名數の計算がよく理解されたら、名數に移るがよく、金錢の計算、おつりの勘定なども少しはさせてよいと思ふ。

結 論

以上のやうにして數觀念を明瞭にさせる事は、一生涯の數に關する知識の基礎の基礎を堅固にする爲めであつて、全くの地下工事である。入學試験の準備を考慮しての事ではない事を明かに意識せねばならない。堅固なる基礎の上に建てられた建築の堅牢な事は言を待たない事である。前述のやうにして練習させるのは決して算術教授のやうにしてやるのではない。朝の挨拶をした後で、或は色鉛筆を出させる序に、又はお歸りの仕度の出來た時にでも充分出來る事である、保育項目には數の取扱は認められて居ないが、觀察、談話、手技、日常の生活等にあたつて當然取扱はれねばならぬ事である。たゞ保育者が意識するとしなくて數の基礎觀念の明不明が分れてくるのである。

幼稚園令では項目を示されただけで内容を明かにされてない。此頃のやうに遊戲に唱歌に談話に手技に次ぎから／＼材料を提供されると、咀嚼するに暇なく何を擇ぼうかと迷つて居る内に一年は経過してしまふ。まして土地の状況に依りて斟酌するといふ事に重きを置き過ぎて大きい目的を考へず、或は手技に或は遊戲に或は談話に傾き過ぎて人間としての基礎教育に缺くる所のあるのに氣がつかない事も無いではないと思ふ。又充分に考慮したと思つて居る事でも識者から見れば間違つて居ないとも限らない、正しき理解のある指導者の必要は刻々に感ぜられる。數の取扱などについては殊に其感を深うするものである。

幼 児 の 數 觀 念 の 發 達

東京女高師附屬小學校 岩 下 吉 衛

一

私は専門に幼児の數觀念の發達について調べた譯ではありません、只ホンの日頃見て気がついたことを思ひ出して書綴るに過ぎませんから、そのおつもりで御覽下さい。

私のうちに今年の春から幼稚園にお世話になつてゐる十二月二日生れの六歳の男の子があります。その子供の様子の二つ三つのことを申上げるわけです。

二

お母様、葛湯を作つて頂戴。

子供部屋に遊んでゐた子が、こんな事を申します。一兩日前に、葛湯を作つて頂いた味を、突然に考へ出したと見えま
す。母親は、餘り澤山こしらへてやると残すから。と、コーヒー茶碗に六分目程、こしらへてやりました。ハイ、出來ま
したよ」と申しますと、直に飛んで來て、

少ないな！。

と首をかしげて、大きな目をあいて、大袈裟に申します。私は、

ハ、ア。量の觀念はあるな。
と思ひました。

三

お湯、お醤油、お酒などは柶で測ります。是等の液體は一勺、一合、一升、一斗、一石、又は一匁、一立、一ヘクトリツトル、一キロリツトルといふ様に色々の單位がありますが、理論上どんなに少しづつでもその柶目を變化させることが出来るものでありまして、斯様な量を連續量と申します。

連續量は柶目の外に、目方、長さ、廣さ、大きさ、時間など色々あります。幼兒は物の長さ、大きさ、柶目などの連續量の觀念と申しましては物々しいですが、長いか短いか、大きいか小さいか、多いか少ないかといふことは、四歳位から區別致します。

蜜柑も小さいのよりは、大きいものを取る。たとへ餘しても、葛湯の少ないよりは多いのを好む。よく笑ひ話にありません所の十錢白銅貨と一錢銅貨を並べて出すと、一錢銅貨の方を取るといふのは、質を考へないで、只量にはかり着目するからであります。

四

もう三年も前の秋の末、イヤ冬の初め、毛糸の手袋を買つて参りました。子供が大勢ゐますので、區別がつく様に色の違つたのを選びまして四組買つて來ました。

お夕飯がすんでから、柶にわけてやりました。所が蒐集本能と申しませうか、所有慾と申しませうか、外の人のも欲し

いといつて聞きません。兄や姉によく言ひ聞かせて、眠る迄持たせておくことにしました。

小さい手に澤山持つて喜んでゐます。皆が面白がつてソーツと一つ取らうとします。さうしますと眞剣になつてやるまゝとします。

所がお乳をのんだり、一寸わき見をしたりしてゐる間に、手早く一つ位取つても知りません。二つ取つても三つ取つても知りません。けれども同じ色のものを二つ取つてしまひますと、氣がついて返せといつて騒ぎます。色の名を知らないので、只頻りに何やらいつて不足を訴へます。

それですから、上手にかくすと、片方づゝ四つ位とつても知らずにゐることがあります。それは數觀念がないからであります。數詞を知らないし數へることが出来ないからです。

五

さて手袋、人間、時計などの様に、どんなに少なくも、單位の量だけは變化させねばならぬ量を不連續量と申します。手袋は一つ以下では役に立ちません。人間も一人、二人といふやうに一人づつ數へます。

是等の不連續量の大小相等は、數へることによつて明瞭に知れるのでありますが、幼兒はこの方の芽生えは前の連續量の大小相等より遅いやうであります。

六

然るに連續量は、正しく其の量を知り、之を言葉や文字に示し、お互に思想を交換致しますには、之を測定つて、數詞に表さねばなりません。抑々測るといふことは、測らうとする量と同種類の或量を單位として、今測らうとする量を其の單

位の量に比べるのです。そうして、單位量の二倍、三倍、四倍……すると二、三、四……といふ數詞の次に單位の名をつけて、之を言表し、之を書表すのです。

私の持つてゐる鉛筆の長さは何程かを測るといふことは、或長さ例へば一糎を單位として、鉛筆の長さをこの一糎に比べます。これが八倍ありますと、この鉛筆の長さは八糎ですといふわけです。

それ故連續量を測りますには測る道具が入用です。物指とか枺とか秤とか時計とかいふやうな道具が入用です。丈を測る技術が大切です。測り方を知つてゐなければなりません。物指の目盛の見方、使ひ方を知らなければなりません。

幼兒は單位の名を知りませんし、道具の使ひ方を知りませんし、況や上手に測る、手際よく測るといふ様なことは到底出来るものではありません。それ故比較的早く芽生える連續量の觀念も之が數觀念の形成のお役には立ち兼ねます。

之は獨り幼兒に限らず、小學校の兒童になりましたも、長さ、枺目、目方、時間そのものの觀念は中々むづかしくて、實驗測の技術も上達しません。廣さ、高さなどになりましたは、特別に修練した人の外は大人でも中々當らないものです。

七

然るに最初は有と無の何れかより外知らない様な不連續量ですが、これは又一つ一つコロリ／＼離れ／＼になつてゐて、順序をつけることも並べることも自由なものですから、之に言葉——數を表す言葉が結びつきますと、數へるといふ仕事となり、數へて得た結果、言葉だけをおぼえ、今度は逆にその言葉を聞いて物の數を思ひ出す様になりました、ここに數觀念が形づくられて参りました。

おやつにお菓子を頂くとき、お遊びで小石を運ぶとき、お池に金魚が浮んだときなど、之を數へなくてはゐられない切實な必要感が働いて、數へるといふ仕事を致します。

こんな時に比較的小さい兄や姉が數へるといふことを教へようなどといふ意識は少しもなくて、只數へるといふことをしてゐるそれが非常によい機會となりまして、數詞に親しみ之をおぼえるやうでございます。

四歳五歳の頃は、同種類のもものが幾つかあるときに、之を數へます。異種類のものには、中々數へません。若し抽象的な數觀念があつて數へるのではなく、目の前の具體的な現實的な實物について數へるからであります。

八

昨年郊外に越しました、一日に五十回近くも通る汽車、この汽車は、子供にとつては誠に物珍らしいもので、ゴーツといふ音、ヒョツといふ笛を聞く度に障子をあけて眺めます。私達も兄弟達も汽車の來るのに氣がつかますと、「ソレ汽車が來ましたよ」と注意してやりました。

所が鴨川行、笹川銚子行、千葉行、市川行など色々の行先の汽車が來まして、夫々客車の數が違ひます。十四輛位の長いのもあれば、五輛位の短いのもあります。

初の中は、

長いな。

今度は短いな。

といふ様に長さ——連續量にのみ着目してゐましたが、その中に箱の數を數へるやうになりました。市川どまりのものは汽罐車まで數へて六輛だけなので、間もなく正しく數へるやうになりました。房總一周のものは十四輛あるのですが、これもやがて正しく數へるやうになりました。かうした十分おき、二十分おきに走つて來る汽車を數へることによつて、數詞を順序よく唱へ、車輛と言葉を正しく結びつけ、ここに完全に數へるといふ仕事をし終へました。

九

この数の言葉を順序よく数へるやうになつたのは、小さい兄や姉が遊び友だちとなり、これが體操のまねをしたり、物を数へたりすること、見やう見まねで聞きおぼえたのが大きな力となつてゐることは勿論であります。又毎朝のラヂオ體操の號令なども與つてゐることと思ひます。

そうして知らず識らずの間に、長い年月かかつて、自然におぼえるのが非常に根づよくなつてゐまして、教へようと思ひ識してやるのではないが結果としては大それた出来栄となつてゐました。

たとへ有意方案的に教へこんでも短時日の間には中々成功するものではありません。又數へることを直接の目的としてやることも勿論有効なことですが、幼児には無理なこととせうと思ひました。

一〇

毎日夕方お湯に這入りますが、いよ／＼上るとき、成るべくよく温つて、風を引かないやうにとの思ひやりから、暫くお湯につかつてゐるやうにしますが、中々それが出来ませんで、頻りに、

上る／＼。

とせがみます。「窺すれば通ず」で母親が數を五十數へる間だけ這入つてゐるやうにと言ひふくめて、

一〇二〇三〇……………十、十一、十二……………と數へます。

これが又頗る有効で、今では百まで間違へずに數へるやうになりました。此の頃は時々わざ／＼四十から三十一へもどつたりしますと、「違ふ」といつて中々承知しません。

一一

數字は時計の文字盤の數字を見て、1から12までは完全におぼえてゐました。書く事も出来ました。時計の文字盤や、カレンダーの數字を読むことは、數字をおぼえるよい材料であると思ひます。

併し數字、この數字は順序數を表す數字で、何番目の時刻かを示す數字です。子供は五十音の「ア」をおぼえたり、いろはの「い」をおぼえると全く同様に「1」をおぼえ「2」をおぼえ、又「10」をおぼえ「11」をおぼえます。

けれども之は自然數としての數字をおぼえたわけではありませんから「5」といふ數字の表すお菓子とか「7」といふ數字の表す蜜柑の數といふ様に、數字の表す實物との結合はしようともしませんし、勿論知つてもゐません。それ故數字を用ひて計算するといふことは多分出来ないと思ひます。又させる必要もなし、させることも無理なことゝ存じました。

一一一

要するに幼児の間は、數觀念を興へよう、數字を教へようといふ様な意識的な教授は、彼等の喜ぶ所でないと思すより彼等の厭ふ所です。斯様な直接的な仕事をしかけるよりも、植木鉢にチューリップを植ゑるとか、金魚を飼ふとかしてゐる中に、又草花の園を作るとか、畑のわきの道を作るとかしてゐる間に、數觀念を形成し、量の觀念を得て來るようになります。

たとへそれが數字では表さなくとも數詞では申せなくとも、計量器で測ることは出来なくても、量の觀念數の觀念は十分に出來てゐますから、やがて適當な時に、言葉を教へ、數字を教へれば頗る容易にたしかかな數觀念を得させることが出来るものであらうと考へてゐます。

これは私の淺い、短い觀察と貧弱な想像を元にして、申述べたにすぎません。御参考となれば結構です。

基本教育としてのおはなし

大塚 喜一

幼児へのお話の獨特の情景・心もち・味はひといふべきものについて申上げ、後に概論的に項目に分けて述べたいと思ひます。

凡そ子供はみな話を聞きたいのではあるけれども、特に幼児はお話のすぢよりもお話によつて開かれて來る親と子との、保母と幼児との心の融和^{○○○○}と交流^{○○○○}の世界が面白くて楽しいのです。だから幼児はお母さんのお話、自分の受持の先生のお話を聞きたい。その心持を満足させてやる事が幼稚園に於けるお話の非常に大切な使命となるのであります。

(註、此事を徹底的に述べやうと思へば、當然嬰兒期のお話から述べ初めねばならなりません。餘りに長くなりますからこゝでは幼稚園時代だけにしておきます。子供の「教養」の昭和五年十月號に上澤謙二先生が「赤ちやんへのお話について」と題して滋味あふるゝばかりの玉文をのせて居られますから、心ある方はそれについて御覽になれば

生命的な感銘を得られるであらうと思ひます。同誌の發行所は東京市外阿佐ヶ谷三四八子供の教養社です。)

保育の一番大切な事は、保母と幼児との人間交渉に依つて幼児の人格の基本的陶冶が出來てゆく所にあります。此見地から各保育項目を眺めますと、「おはなし」は保母が直接幼児に對する 格的交渉であるといふ獨特の教育的性能が認められ、従つて「おはなし」は保育の中心である」と申してよいと思ふのであります。翻へつて、私共が實際保育について常に感じます事は、我々は大人である、然るに幼児達は『幼児の世界』に住んでゐる子供であつて、其の間に互に別々の世界に住んでゐるといふ様な感じが多分にありはしないかと思ふ。子供はその純真なる本性を赤裸々に表して「お母さん！」といつて慕つて來ます、「先生！」といつて飛びついて來ます。それに對して我々は満心の同情と共鳴とを捧げたいのです。然るに悲しいかな大人とし

ての心が働くが爲に、其中で最も警戒しなければならぬのは所謂教育者としての特別の心持が働くが爲に、折角心の扉を開放して飛び込んで来て呉れる幼児達に對して充分の満足を与へてゐない。子供と我々との間に解け難い塊りのやうな或は紙一枚の隔りのやうなものがあはしれないかといふ氣がして、それを除きたい。除きたいといふ事は吾々の非常な苦心であらうと思ふのであります。此際、我々を『幼兒の世界』へ導いて呉れる案内者媒介者となるものが即ち幼兒へのお話であると思ふのです。そこで我々は幼兒獨特の物の見方感じ方例へば幼な心へのお話の構成要素としての體験的だとか律動的だとかの特質（長尾豊氏著幼稚園ばなし第一集第二集、及本誌昨年三月號拙稿「幼な心へのお話について」を参照せられたし）について學んでゆく中に、今迄何の氣もなく聞き流し見のがしてゐた幼兒の一言一行にホントに子供らしい味はひのある事がわかつて来て、例へばお馬がカツポカツポ、雀がチヌチヌチヌ、チヌチヌチヌ、太鼓がタンタンタン、タタタタン！ 等いふ様な韻律的語句の面白味等が段々と實感されて来るやうになるのであります。かうして書物で學んだ事が單に兒童

心理や童話研究の知識として止つてゐるだけでなく、子供と遊んでゐる間に體驗化されて來るといふ事は、子供の友として許されたる我々の貴重なる特權であつて、我々は斯くして子供から基本教育としてのおはなしの態度を學ぶべきであります。従つて幼稚園に於ては、個人對話とおはなしとの兩者は互に融通性のものであつて、互に他を助け合つて進んでゆく事によつて、基本教育としてのお話の特質が體現せられるのであります。保育は即ち基本教育であつて、若し方法と云へば生活による教育なのでありますから他の時期と比較して幼兒期のおはなしの特質を求むれば當然此處に歸着する譯であります。この所は幼稚園の先生方にどうかよくわかかつて頂きたいのであります。扱て此處で最初の問題に歸りますが、かうして我々が幼兒へのお話に段々習熟するやうになつて参りますと、お話を迎じて樂しみ得た幼兒との心の交流の世界が、お話以外の平生の人間交渉の場面にも浸み込み、うるほひを與へて行つて、今迄の大人らしい心持や言葉や態度等が段々と『幼兒の世界』の心持や言葉や態度に純化されて來るのであります。此間の微妙な情景を若し子供に代つて解説する事が許されま

らは、子供の心持は恐らく次の様でありませう」あの先生はお話を私達に段々面白く聴かせて下さる様になつて来た。

それと同時に一緒に遊んでゐても私達の心持がよくわかつて下さるやうに思ふ。最初から私の先生として求めてゐた心もちが此頃になつて十分に満されるやうになつた。入り難かつた入口が開いて来たやうな、穴があいてゐた所が満されたやうな……これこそ私の先生だ！」と。餘りに立入つた言葉を用ひまして濟まない様な氣がしますけれど、先生方が日々保育生活に於て子どもたちと親しんで頂く上に幾分の御参考ともなり得ますならば、多くの子供たちから小生が受けて来た純情に報ゆるの一端ともならうと思つて、何とかして表現して見やうと苦心した次第です。

ホントに子どもたちの純情ほど有難い力強いものはありません。それを事實に明白に立證されてゐる鈴木すみ子先生の「一年生を持つてみて」と題せられたる體験談を本誌昨年十一月號に紹介させて頂きましたから、本文を此處まで読んで來られた方は是非それと對照して御覽を願ひます。實際一度幼な心へのお話のコツを握られた先生は、どうしてあんなに子供達から慕はれるであらうか、と不思議に思

はれる様であります。お話をしてゐられる時の態度を見ても、もとより一生懸命にはしてゐられますけれども、決して大聲を出すとか又は妙に固くなるとかいふ様な無理な苦しさうな所は少しも無く、極く樂に、極く自然に、今話してゐる子供達と一つに融け合つておはなしの世界即ち幼児の世界を自由に游泳してゐられる有様は、傍聴してゐる者迄もその中に引入られる程であります。斯うした境地は各方面の體験と研究とが有機的に結合された成果であつて其詳細は後に述べますが、此の綜合が出来てゆく中心的な働きをなす所の大切な態度について先づ知つて頂きたい。第一には、幼児の心を以て話材を讀むか又は思ひ浮べて見る事です。此際特に言葉に注意して、その言葉が子供の心にどう響くか、子供としてリズムのどの點、反復のどこが面白いかをよく味つてゆくのです。そして、これはよい話であると思へば、その同じ話材を何回も繰返して話すがよい。「おはなし」とは決して書物に書かれた童話の材料そのものではなく、それが話される時に生ずる保姆と幼児との心の交流を云ふのですから、話材が幼児の心に入り易い様に話者の心に理解されてゐるならば、それを何回も繰

返して話してゆく度毎に心の交流は一回毎に新しく、しかも次第に深められてゆくのであつて、此處に幼稚園のおはなし獨特の面白味が湧いて來るのであります。斯くして周なる用意と、自然にして單純なる話方の態度と、眞實なる反省とに依つて爲された一つ一つのおはなしの記録を保育日記に残しておきますと、その體験が一ケ年位重ります中、其先生自身のお話の材料が蒐集せられたことになります。それは童話の本から一寸讀んだといふやうなかりものではなく、實に自分の血と涙との通つた自分と子供とをつなぐ心の絆ともいふべき生きたお話集であります。それが二年三年と經驗を積むに従つて、一つの話材を通じて自分の保育體験が如何なる経路をとつて進んで來たかがよくわかります。いざおはなしとなれば、いつでもこの日記の中から其時と處と人とに適當なものを選び出せばよいので僅かな時の間に今話さんとする話材についての過去の經驗を思ひ起して心構へを定める事が出來ます。かうしてホントウに自分のものに同化された「おはなし」が一つづつ出來る毎に、實に何物にも替へ難い大切な心の糧を得た心地がするでせう。この「おはなし」によつて自分はいつとも子供

たちと親しい心の交流融和を味はふ事が出來る。自分のおはなしをきいてくれる子供たちの心がこのおはなしと離すことが出來ないやうに融合されて自分の胸に抱かれてゐるのであります。かうした心もちを味はひ得た先生は、今かうして一人で本文を讀んでゐられても、自分の周圍には多くの幼児が取巻いてゐるやうな祝福された氣持で満たされてゐられるでせう。おはなしは實に茲に至れば人生の基調であり心の光であります。斯くして内から發せられた心光は、その先生の保育生活全般に漲り輝いて來ずにはおかぬでせう。「おはなしは保育の中心である」との言葉は茲に至つて更に深く味はれるのであります。

本題の要點は、基本教育としての特質を徹底せしめむが爲には幼稚園及小學校幼學年のおはなしに於て如何なる態度をとるべきかといふ事であります。童話及話術に就ての一般論は夫々の著書に譲ることとし、茲には右の要點より見て實際家の指針となるべき大切な事のみを述べます。便宜上、項目に分けて述べますが、是等は何れも中心的なる本體を各方面より觀たるものでありますから、讀者は前に表現せる心もちを以て之を讀まれ、以てこの本體を

把握せられむ事を望みます。尙本文を記すに當り、筆者は日本童話聯盟主事松美佐雄先生のお書きになつたものとおはなしとより教へらるゝ事最も多かりしを謹で謝意を表します。

一、原理 保育——基本教育

A 本質原理は『未分化の教育』でありまして、この原理から、幼な心へのお話の構成要素として直觀的、體験的、秩序的、律動的なるものを選びべきであります。

(話方研究第四卷第一號参照)この中で『體験的』といふ事が最も大切であります。智情意未分の具體生活を爲せる幼児は、すべてのものを生きた姿に於て受入れ日發表せんとしてゐますから、かうした生活に受入れらるゝ様な生きた材料を選んでお話を構成しそれが幼児の心の中に入つておのづからなる力によつて生育してゆくやうにおはなしすべきである。

B 方法原理は『生活による教育』でありましてこの原理から保母と幼児との人間交渉と「おはなし」とが互に助け合ひながら進んでゆき、幼児の求める一人間性と「おはなし」との兩方面の要求を一節として満してゆ

く事に依つて基本教育としてのおはなしの使命を全うし得る譯であります。保母と幼児との個人對話は實にかうしたおはなしによる基本的人間教育の出來てゆく素地を作りつゝあるものであつて、一見平凡事の如くに見ゆる日々の雑談を最も純眞卒直潑刺たる人間交渉にまで深めてゆくやうに保母は幼児の心に隨伴し共感共鳴しつゝこれをいたはり育てゝゆくべきであります。此處の所は實に本文全體の基調をなすべき大切なところであります。筆者は之を正當に適切に表現すべき言葉を見出さんとして苦心したのであります。讀者諸士は何卒前に述べたる所と對照してよく其の眞諦を體得せられむ事を望みます。

二、幼児の心理の理解

A 満一—三歳頃(幼稚園に來るまで)

此時期に於ける母と子との對話は實に「おはなし」が嬰兒の心の環境に入り來る根源を培ふもので、斯くして子供は言葉をおぼえ、やがて萬物に對するしたしみが養はれて參ります。教育の根本をなす親心子心の融和はこの最初期のおはなしを通じて深められ益々眞實に味はる

、やうになるのであつて、従つて後の各時期のおはなしを可能ならしめ、實効を擧げしむる素地を形成しつゝある時期であります。

B 満三—五歳頃（年少組）韻律愛好時期

此時期の幼児は、韻律的な語句、事件又は表現の反覆動物の鳴聲等を含むおはなしを喜びます。その興味と注意とは幼児が日常見なれ聞きなれてゐる現實の事物の上に向つてゐるが、幼児の心に入り来る事物はすべて幼児と同じ世界に住み同じ思想感情を有してゐると思つてゐる。例へば「篠の葉がおいで、おいでをしてゐる」「お月様が私を追ひかけて来る」「お饅頭がおいちいと言つてゐる」等いふ如く、現實の事物に對する人格的交渉が此の時期の心理の特色である。大人の眼からは空想と見えても幼児にとりては醇乎たる現實であり、むしろ現實とか空想とかの分化的判断以前の純一なる幼児の世界なのであります。

C 満五—八歳頃（年長組及小學校幼學年）

想像馳聘時期

此時期に入れば、幼児は自己が現實に寫さんと欲して

爲し得ざる事を想像の世界に於て爲すと假想する事に大なる愉快を感じる様になる、この假想を實在と信ずる世界を假象の世界といふのであつて、幼児の心を斯かる世界に誘き入れ、現實の大人の世界では味ひ得ぬ此時期獨特の想像力を擅に活躍せしめるやうなおはなしを最も愛好するのである。

次に、此時期の幼児は一面又甚しく探求的である。昨年十月名古屋に於ける第五回全國幼稚園關係者大會に於て（同會記録一五〇頁参照）久留島先生は、幼稚園に於けるお話は首尾完了したる童話のみに限るべきではない旨を方説せられ、

『子供の心の閃きは總てのものに對して驚きの目を見はり、總てのものを知る事に安心と喜とを得る。之が子供が常に話を求める心の立場であつて、従つて彼等は常に何物に向つても、「何故?」「どうして?」「誰が?」「何を?」「どこで?」と云ふ。斯かる心理に適合する様に疑ひの解決、或は彼等の不安に對する説明をして安心を與へる事が幼稚園のお話の基本になるべきである』との主旨を述べられましたのは、實に我々の實行上の

指導原理であり中心精神であると思ひます。この主旨を前に個人對話が大切であると述べた所と對照して御覽になれば、この解決といひ説明といふは幼児より見ての事であつて前に基本教育の方法の原理として一般的に述べた實際の情景の一々が明になつて來ることと思ひます。而して、斯かる好奇的探求心に應ずべき童話を求むれば即ち「事物起原説明説話」と稱せらるゝ種類のものでもあります。

(註) B C 各項に就ては松村武雄博士著 童話及兒童の研究 培風館發行 を参照せられたし)

三、おはなしの前・中・後

(前) 話材はなるべく幼児に適するやさしいものを選ぶがよい。かうした話の面白味を感じし得る心は

(イ) 幼児の心理の研究、發生的及精神分析的考察

(ロ) 幼児との相互生活、殊に幼稚園の朝の個人對話によつて子供に親しむと共に子供から學ぶこと

の二方面から養はれる。この心を以て今語らむとするお話を一通り讀むか又は思ひ浮べる事が大切です。

此際特に言葉に注意し且お話の中の一々の光景と之に

伴ふ心の動きとを鮮明に切實に實感してゆくのである。お話の成敗とその効果とはもとより、殊に話者としての修養の進度は、このお話の前の心構へによつて其大半が決せられるのである。

(中) お話の態度は單純・直接的・戲曲的なるを要する。而してかゝる態度は、前に述べた周到なる準備に依て養はるゝ童話に對する話者の純眞なる感情から自然に生ずるものである。山崎光子女史がその著「お話の研究」に於て戲曲的態度を論じて、

『話者が或る童話を話してゐる中に、話中の人物の動作や事件の發動等に關する意識が内心に傳はつて内部からの刺戟が運動神經に作用して、不知不識の間に肩を上げ眼を張り音聲に變化を生ぜしめる等の事は、最も自然な——寧ろ生理的な作用である』

と云はれたるは最も明に此間の消息を語るものである。

特に幼稚園のお話に於ては、感情表現の發生的形式に意を用ひ、一つ一つの言葉のひびきを正確に適切に表現する事に努むべきである。

又、保姆はなるべく椅子に腰をかけておはなしをすれば、落つて樂に出來て、幼稚園にふさはしい態度が自然に得られる事と思ふ。

(後) 自分のしたおはなしに就て其當時の情景殊に話者としての自己の心の動きを書き記す事は、健實なる進歩の原動力ともなるべき重要な努力である。斯かる心の記録は僅か數分時のおはなしを中心としてその前の周到なる準備よりその後の幼兒の創造的反應に至るまで、話者幼兒との生活記録全般に進展し行くであらう。數行の文字の中にも、話者の内心の告白があり、幼兒に對する感謝があり、おはなしの世界に住む者の責任と愉快と希望と感激とが生々しき心の體驗として書き記されてゐる。話者自身が熱心であればある程、この日誌は自己にとりては既往の研究と體驗とを反省して今後の方向と態度とを啓示する指針としての價値を益々發揮する。又同志の友にとりてはその智能と經驗との足らざるを補ひ誤れるを正すの道しるべとなる事もあらう。殊に同じ話材を一回毎に新しく生かしておはなしして行くにはこの日

誌は無くしてはならぬ大切な導きであります。本文を編せる目的も實に斯かるお話の日誌を讀者の一人々々が記してゆかれる事に依て事實上達成せられる譯でありますから、筆者は本誌を通じて又は年々の聯合保育會其他の諸會合に於てその輝かしき成果を發表せられむ事を今より期待する者であります。(殊にホントウにお話を研究して行かうといふ熱意ある保姆諸彦の御會合ならば、たとひ小數なりとも小生も出來得る限り御相談に應じ喜んで共に研研して行きたいと思ひます。)

四、保姆の人生の基調としてのおはなし

實に被教育者と教育者との二つの心。伸びてゆく二つの生命が融和協同して一つになつて働く時、そこに眞實の教育を見ることが出来るのであります。保姆と幼兒とがこうした心の融和に入る上におはなしが如何に大切であるかがわかれば、この眞實の教育の中から保姆としての樂しき人生が開かれて來ることは、最も明かなる自然の常理であることがわかりませう。

(昭和七・四・二六)

幼児にはこんな遊び場を與へたい

東京市公園課長

井 下

清

若草の萌え出て健やかに伸び行くやうな幼児は、何の躊躇もなく朗かで、遊びを楽しむことゝ何か新しいことを知りたいとする外には望はないらしい。

無邪氣な兒童の頭の内にも正しい判断力を神様は與へられてあるから、如何なる遊びを選び如何に何時まで遊ぶべきかは、明瞭な認識は無いであらうが何處からとなく導かれ判断して誤らぬ事は畏しい程である。天性判断力の缺けてをる子供は特に注意すべき素質を持つものであつて、山村水郷に野の鳥の如く成育した兒童に有爲な人物が出てをるに關らず、常に正しい指導を受けた皆の良家の子弟から不良な分子を出すことは、兒童の自然の判断力と自然に親しむ心を助長せずしてすでに固く不透明となつた頭の大人が程度を誤つた指導をした結果ではあるまいか。

兒童の成育は遊びの間に進められるのであるとすれば兒

童の遊び場は善い保育所であり教室でもあるべきことにな
るが、育てるといひ遊ばせるといひ教へ導くといふも要す
るに兒童が持つ天來の正しかるべき本質を誤らず助長せし
めることであつて、外形的にも内容的にも自然の手に愛ま
れることを原則とすることが、最も善いことではあるまい
か。今日の我々が誇る文化は我々の祖先が自然兒として野
に山に育ぐまれた力によつて生れたことを考へたい。

人の技巧や理論でなく自然に親しみ其内に自由に遊ぶこ
とが肉體的にも精神的にも或る力を養ふものであることは
考へられもし、又主張されもすることであるが、此れも何
時も机上論で終る憾がある。

我々の反面には如何にしても切離すことの出來ぬ迷信と
誤りと知りながら其れに曳かれ行く蒙念と我執がある。自
然の力の偉大にして正しく強いことを知りながら人の智慧

を先づ執らんとする自惚がある。兒童遊園に於ても工場の如く整備した物質的な施設と科學的指導法を最善のものと考へることに於ては、實に抜き難いものがあつて、先人が或る施設を考案した時には其れを如何に運用すべきかに就て正しい計畫があり理想がある、或る理論を完成した時に其處に神の如き誠があり熱がある。然し其れが他の人によつて模倣され追従されて行く間に當初の精神は失はれ又は錯誤を來たして似て非なる形體のみが迷信の對象となつて傳播される。こゝに物質文明の缺陷があるのであつて、決して施設と指導法に誤りがあるのではない。

茲に於て兒童遊園に於ても莫大なる經費を要する物質的施設と經營方法よりは自然に歸る方針が最も容易であり、安全且つ善い方法ではあるまいかといふことになる。此の自然を根本とする遊園も實際に於ては其要點を誤られて矢張り死灰の如き理論の一として終るものも無いではない。兒童の保育に最も考慮を拂はるゝ都市生活に於て、自然の内に遊び自然の懷に抱かれんとすることは樹上魚を求むる如きものであつて、結局は芝居の大道具式の自然を強て

作り其れに種々の意義を負はせて最善の遊園として兒童に與へて居る如きは名は自然的であつても精神は物質本位の施設と何等異るところはない。常に傷められることを怖れて居る茂生を作り緑の垣を圍すことが必ずしも自然的ではなく、鐵筋混凝土の建設物と鐵製の遊具が在つても精神に於て自然を基調とするものでありたいのである。即ち形よりは精神に出發したいのである。

兒童遊園より見た自然は第一に直射する太陽の光と清々しい空氣、それは五風十雨時に寒暖あり強弱があることも必要なことであつて、人も草木の如く健康に生育するには陽光と空氣を必要とし又智的開發にも其れに親しましめたのである。

次ぎは植物殊に樹木の自然力である。植物は其成長に必要な榮養の爲めに我々に有害な炭酸を空中から、有機分解物と過剰水分を他の養分と共に地中から吸収し、我々に必要な酸素と水蒸氣を空氣中に放散する。其密生する枝葉は器械的に空氣中の埃煙を濾過し美しく涼しい綠蔭を作つてくれる。植物の生長作用は多量の熱量と陽光を消費するの

で附近を冷涼にして強烈な射光線を浴びても何等苦痛を感じぬことは夏山に遊ぶものゝ實驗することである。又植物の緑の色は眼を通して精神の休養に靈妙な働をする。

自然性を持つ土砂即ち適度の濕氣を保有し夾雜物の無い自然の土砂は遊び材料として極めて平凡であるが、又最上のものである。自然の土砂の爽快味は清淨であること冷やかであること適當の濕氣と其アルカリ性が皮膚に快感を與へ其機能に善い結果を與へることから古來既に土いぢりすることを健康術の一とされてをる。

此の太陽の光線と空氣と樹木と土は必ず正しい状態に在らねば遊園に利用して有効ではない。空氣が埃と塵に汚れ煙で濁つて居つて正しい自然ではない。然し都市生活に於ては其絶對を望むことは難いことであつて比較的純自然の近いことを以て満足せねばならぬ。即ち日光は直射光線を土地にも設備にも兒童にも相當に受け、空氣は埃塵有毒瓦斯と細菌が可及的尠く適度の濕度と溫度を保つことが望ましく常に相當な風があることも必要なことである。植物は日光の直射を遮らず、有害物を發生せず充分昇熱を和げ濕

度を保ち、適度の綠陰を作り眼を樂ましめるものであるべく、土砂も常に清潔で必要な濕度を保ち冷氣を保持することとは必極條件である。日光の直射を怖れることは一の誤解であつて強い光線に照射される時に高温を生じ其れが更に幅射されて意外な高度に達するのであるが、其對策として木板鐵板の屋根簀布の覆を設けることは貴重な直射光線を遮つて熱線として幅射せしめるので、一利を失ひ更に一害を増すものである。夏日の強烈な日射を和げるには樹木を利用して光熱を攝取せしめ附近を冷涼にし濕氣を増すことになり何等危惧なく相當の直射光線を享用することに優る方法はない。強烈な陽光に依る眩暈があつても綠葉の間に於ては何の障害を受けることは無い。

斯かる自然を主とする遊園の規模は收容兒童數に比類すべきもので過密な收容は自然味を滅殺する事から同一時間 に於て兒童一人當り最小一坪以上の自由廣場と其半量づゝの遊具設備地と休養樹林地を與へたい。自由廣場は種々の集團遊戲、自由遊戲の地であつて毬一つ旗一本其れに箇の一つもあれば何等近代的遊具が無くとも善き遊園として

兒童に倦怠を感じしめることなく活用される。其他に若干の孤立樹を周圍に、自然味の溢れた樹林が必要であるが、廣場の内に多くの樹木を置くことは遊戯の障害になり貴重な日光を遮ることになる。廣場に圓形其他の輪廓線を作ることも全く無用の施設であつて極めて自由なことが、望ましい。地盤は天然の壤土の表面を粗砂で仕上げたものが最も善い。遊具の設備は利用する兒童に應じて適當なものを選ぶべきであるが、變つた種類を多くすれば兒童の誘致力は増すが危険が伴ひ自然から遠ざかる傾があるので、普通の場合には大小のブランコ、ジャングルジム、滑臺、シーソーなどで充分であらう。砂遊び場は縁の無い盛上げた砂の山が最も善いが狭い處では砂箱にするのも致し方がない。但し樹木又は屋根を以て覆ふ事は最も悪いことであつて、毎日砂を清潔に耕し、飾ひ、適度の濕氣を與へることが必要である。

休養樹林地は森の中の遊び場であつて、これを博物教材として趣味性涵養の園藝場とし、休養地としての芝生とせんとすることは二兎を追ふものであつて、其れ等は遊園に連續して別々に設くべきである。兒童とても氣持のものであつて盛んに遊戯をする時に花を見、珍らしい植物を覚え

んとすることは不可能なることである。芝生の遊園は別に朗かな休養地として考へるのであつて休養樹林とは云へ遊園内に於ては遊戯によつて荒されることを怖れる種類のものでは置くべきでない。

樹下を利用する樹木としては樺、篠懸木、刺槐等が適當であつて周圍の叢林としては椎櫻、冬青、楠等の常綠樹に楓類櫻等を配し下草に青木、黃楊、茶梅などの常綠灌木と日射の有る部分には八仙花、木瓜等の花木を植込むがよい。若し叢林と遊戯地との距離が尠くして柵を必要とするなれば鐵パイプ細丸太で柵を設けることが危険が尠い。

兒童遊園の自然性は其管理方法にある。管理指導者が兒童の持つ素質を善く導き自然の事物を利用することが原則であつて、兒童を物質視せぬことは當然である。又自然味を常に横溢せしめること、清潔を保つこと殊に濕氣を保有することを見逃してはならぬ。乾燥は清々しさを失ひ溫度を上昇し埃を生じ地盤の彈力を失ふ。

最も簡易な善い兒童遊園は自然を正しく利用することであつて、面積の狭い場合も其精神に於て自然を理解し利用することが根本であり貴いことであると思ふ。

コドモカルタから幼児唱歌(2)

葛原しげる

(1)

小學校は、校長先生のよいのが、善いことはいふまでもなく、校舎のよいのも善いに決つてゐますが、しかし、もつと大切な事は、受持の先生のよい事が、一番大切です。

幼稚園では、やはり受持の保姆先生の善い事ですが、多くの場合、園長その人の何かが、その部下の若い保姆先生方に影響します。それで、私は、思ひきつて、理想的な「園長先生」をかいてみました。

1、園長先生 ニツコニコ

唱歌も遊戯も お話も

皆 お好きで お上手で

いつでも いつでも ニツコニコ

2、園長先生 ニツコニコ

稗も 積木も おはじきも

皆 お好きで お上手で

いつでも いつでも ニツコニコ

3、園長先生 ニツコニコ

お砂場遊びも お手玉も

皆 お好きで お上手で

いつでも いつでも ニツコニコ

(昭和幼年唱歌第一集)

もし、お叱りを受けるかも知れませんが、でも、理想で

なくては、一般向には書けませんもの。只、ブランコだけは省きました。それは、日本中の園長先生の中には、きつと、おのれにならない方も御座いませうし、おのりになると、幼稚園のブランコの綱の断れるほどのお方様も御座いませうから。

各節とも最後を

いつでも いつでも ニッコニコ

としましたのは、この方が、いかにも、やさしくひどくからです。たとへば、

いつでも ニッコニコ ニッコニコ

ともしたいところです。これでは、安つぽくなつてしまいます。品が下つてしまいます。どうぞ、しとやかにでも、甲斐々々しく、私から申しますと、いつもニコ／＼して、いつもピンピンとして、そして、幼児と一緒に、よく遊んで下さるのではなくては、園長先生ではありません。そして全く、いつもニコ／＼してゐて下さるのではなくては、ほんとの園長先生ではありません。校長先生の中には威厳を保つといふ事に苦心さるゝ方もあり、その必要のある場合も

ありませう。しかし、園長先生に限つては、そんなものは、いけません。いけないです。必らず、お體丈夫に、いつもニコ／＼でゐて下さい。そして、いつも、ピン／＼としてゐて下さらなくては、園長先生ではありません。

いつも ニッコニコ 遊戯や唱歌

をしへて下さる私の先生

今日も ニッコニコ いつものやうに

をしへて下さい 私の先生

これは、大正三年頃作つた「私の先生」の第一節で、大正幼年唱歌の第一集に収めた梁田貞氏作曲のもですが、それよりは、此の度の方が、たしかに幼稚園向ではないでせうか。一體、幼稚園の先生は、どなたでも斯うありたいのですから、園長先生と、きめる事は如何とも案じましたが、題目としては、他にないのです。保姆先生とは申しません。又、舊作の様に「私の先生」では、小學校の先生でありますから、幼稚園だけのにしたのです。

(二)

「マリ ガ ツキタイ」とは何といふ女らしい望でせう。
「ヨロヒ ヲ キタイ」が男らしいのと好一對に――。

そこで、毬とは何んな毬でせう。

そして、どこでつきたいんでせう。

かくて出来ました。

毬がつきたい

梁田貞氏作曲

一、私は 毬が つきたいな

大きなゴム毬 白い毬

真赤なお花を かいた毬

トンく トンく つきたいな

二、私は毬が つきたいな

お縁で ついても はづむ毬

お庭で ついても はづむ毬

トンく トンく つきたいな

(昭和幼年唱歌第二集)

幼稚園程度の女兒は、毬が好きです。大きいゴム毬が好きです。只白いのよりは、美しい模様のついたのが好きです。美しい模様にはいろくあります。その中でも、歌になるのは、毬では何としても花の模様です。赤や青の繪の具で鮮かに描いた花模様の毬です。私などの幼時はゴム毬は無くて、綿をしんにして、糸を巻いたのか、又は綿なしで、しんから糸を丸めて巻きつけた毬でした。そして後者の方がよくはづむのでした。その糸は、多く木綿を織つた末の糸切を、繋いで巻きつけるのでした。それが、自分の身長よりも高くはづむといつては悦んだものでした。姉や姉の友達に作つて貰つては毬の數の殖えるのを悦びました。また、大きいのを悦びました。大きいといつてもやつと橙位の大きさのものでした。そして、色糸で、かゞつたのは上等の毬でした。

今や毬界は、ゴム毬全盛でした。自分の頭よりは大きい程のゴム毬を、重くもなく抱へて、ついて遊べるのです。うれしいことです。そして、自分の身長も二倍も三倍も高くなるので上るのです。うれしいことです。

『これく、穂を、墨の上でついではいけません』

と、よく叱られるほど、どこでもつきたいのが穂です。それで、お縁と、お庭とを特に第二節で出しました。ほんとに、穂はよくはづまなくてはつまりません。よくはづむ穂を、上手に上手につきたいのです。

トン トン トントン つきたいな

は、『上手にくくつきたいな』のことです。上手につけるのでなくては、つまりません。

(三)

ノハラ ハ ヒロイ

ほんとですく。野原は広いです。廣くなかつたら野原ではありません。何といふすばらしい表現なのでせう。しかも其の繪のすばらしさ。只、(形の草が一面に重ねて描いてあるだけなのです。大人がかく野原は、きつと道路まで、遠雲までかくでせう。ところが、只、簡単な手法の草ばかりで。安心してあるのは、何といふ自信でせう。野原は草こそ特徴でした。

さて、『野原』の、さうした感じを、まづ曲でかいて貰

ひました。曲だけで、この廣い感じを、かいて貰ひまして、それで、それに、歌詞をはめることにしました。中の、タラの二行は、作曲者の選定です。その他の歌詞を定めるために、作曲者と、夜更まで、いろくく歌つて見れば、苦しみました。少し長くて、對照しにくいのですが、左のとほりです。

野原は ひろい

梁田貞氏曲

1、野原はひろい どこまで廣い

あれく廣い どこまでも

野原は青い どこまで青い

あれく青い どこまでも

あれ 花がさいて

鳥がないて

楽しい野原

タララ タララ タララ タララ

タララ タララ ララララララ

野原はひろい どこまで ひろい

あれ〜ひろい どこまでも

2、野原はつどく どこまで つどく

あれ〜つどく 天までも

野原は青い どこまで青い

あれ〜青い 天までも

あれ 花がさいて

鳥がないて

楽しい野原

タララ タララ タララ タララ

タララ タララ ララララララ

野原は つどく どこまで つどく

あれ〜つどく 天までも

昭和幼年唱歌第二集

少しく理窟つばいとも思ひ、長すぎるとも思ふのですが

しかし、非常に軽快な曲ですから苦もなく、覺へられ、苦もなく歌はれるでせう。

少しく紛れ易い言葉がつどきますから、幼兒の暗誦に向かとも案じますが、第一節は

野原は ひろい……どこまでも

野原は あをい……どこまでも

……

野原は ひろい……どこまでも。

で、初と終とは同じです。第二節は

野原は つどく……天までも

野原は あをい……天までも

……

野原は つどく……天までも

で、やはり、初と終とは同じです。そして各節とも、中央は、同文句なのですから右の二形式さへ覺えれば、苦はないのです。それも、曲の流れに乗つて、樂に、文句は口

につくはずです。長いからとて、すぐ、恐ろしがられては困ります。

(四)

ヨロヒヲキタイ

ほんとです。五月の節句にでも、見るたびに、鎧は『着て見たいなア』と思ふのが男児の常です。それが、すなほにかいてありますから、少しも嫌味がありません。ヨロヒヲキタイ！ 何でもない事ですが、これは、決して韻文ではありませんが、その心持の躍動は、リズム豊かに、ピチ／＼はねてゐるのです。そこで、

鎧を着たい

小松耕輔氏作曲

一、鎧を着たい 着て見たい

昔の 強い大將が

みんな 着てゐた鎧です

二、鎧を着たい 着て見たい

刀も 二本 かう差して
兜かぶつて 御大將

(昭和幼年唱歌第二集)

『昔の、えらい大將』といはないで、『強い』にしたのも、『みんな』とつけましたのも、あくまで、積極的に願ふ心からです。『刀も二本かうさして』は、手まね身振をそのままに寫しました。『御大將』とは、少しく、幼児語から離れますが、これくらゐは、許して頂きたいのです。そして、これは、遊戯をつけられます時、まる／＼肥えた坊ちゃん達が、紙の兜をかぶつて、どんなにか、大感張であらうかと、思つてみても愉快です。昔から、五月織や、武者人形の唱歌は幾つもありますが、『ヨロヒヲキタイ』と、端的に、直截的に謂ひ放つたものはないのです。遠足に行きたい、菓子を食べたい。何々したい……幼児の欲求は無限ですが、凡そ、鎧を着たいといふ程、實際に同感しうる特殊の欲求は少ないではありませんか。珍らしい鎧です。昔の武士は皆着たといふ鎧です。見るからに立派

な鏡です。珍しい物は何でも経験して見たいのが兒童な
のですが、鏡や兜は、いかにも男性的で、男兒の心を引く
こと百パーセントで、全く、『ヨロヒヲキタイ』のです。
實際、見榮坊の心も手傳ふ大人には、よし、さう思つたに
しても、かう端的には謂へない事です。そこに強い慾求が
此上もなく効果的に現はれてをります。

斯く聞く時、幼兒の言葉は、すべて割引するを許さない
絶叫である事が今更に思はれます。おろそかに、聞き流し
たり、よい加減な返事をしておく譯にゆかない所以です。

(五)

どの動物園へ行つて見ましても、人氣ものは猿です。そ
の動作と、その容貌とが、人の眼をひき心をひくのです。
殊に子供を引きつけるのです。その猿について曰く、

サル ハ ヒツカク

全く、猿は引掻きます。引掻く他にも猿の特徴はありま
す。その昔『おさる』と題して、作りましたのは梁田氏の
名曲を得ましたが、

おさる おさる

キヤツ キヤツ キヤツ

追つかけて ころんで

キヤツ キヤツ キヤツ

親猿 子猿一しよに遊ぶ

あつちでも こつちでも

キヤツ キヤツ キヤツ

おさる おさる

キヤツ キヤツ キヤツ

(大正幼年唱歌第六集)

といふのがあります。之は、その聲と、親子で一緒に遊
んでゐるといふ事とに中心をとりました。ところで、その
擬聲が多すぎて、却つて効果を弱くするとも考へましたの
で、後に、宮城道雄氏の箏曲童謡としては

おさる おさる

追つかけて遊ぶ

ころんで遊ぶ

親猿 子猿 一緒に遊ぶ

あつちでも キヤツ キヤツ キヤツ

こつちでも キヤツ キヤツ キヤツ

(箏曲童謡第一集)

としました。右二篇の何方が、實際に幼児向として正しい表現であるか御批評を頂きたいのですが、又別に、猿の特徴を、お顔とお尻の赤いところに取りまして、『お猿のお顔』と題してものした一篇があります。これは、箏をひくお嬢様、また、それを聞かされる方々の多くは、極めてお上品でゐられせられませうに、お顔はよいとして、お尻は少しではない、大に困りますが、然し、由來、子供の爲の長唄にも、お琴にも、その『お上品』なのばかりで、氣持よい笑ひ得る曲といふのが無いのです。そこに氣がついて、大に笑ひ得るものを得たくて、次のを作りました。全く無邪氣とか、可愛らしいとか、美しくて上品なものが多いのですが、思ひ切つて笑ひ得るものが少ないのです。それで大正八九年頃は前記の『おさる』で、ニッコリさせられ

ましたが、十二三年頃は『チョコレイト』でオホホホ位の笑を醸させられました。それが、昭和三四年頃には、此の『お猿のお顔』で、ワハハツ——と笑はされたのです。しかし、これには下品な缺點がありますので、全然、別に、『ワン／＼ニヤオ／＼』を得て、昭和六年は、大に、遠慮なしに、敢て上品といふのでもありませんが、決して下品でなく、ワハハ、、、と心から哄笑する機會を與へられて箏曲童謡の成功を見たのでした。

さて、『お猿のお顔』といひますのは、

お猿のお顔は 赤いのさ

生れた時から 赤いのさ

怒つてゐるんぢや ないんだよ

酔つばらつてゐるんでも ないんだよ

お猿のお尻は 赤いのさ

生れた時から 赤いのさ

尻餅ついたんぢや ないんだよ

怪我してゐるんでも ないんだよ

(箏曲童謡第二集)

足の爪 長い
手の爪 長い

です。事實、お猿のお顔とお尻とは赤いです。その特徴は、他の動物の何にも無い所ですが、今、新らしく、幼児の表現に教へられたのは『サルハヒツカク』ことでした。

たしかに猿は引掻きます。しかし、引掻くのが、いつもではありません。とはいふものゝ、やはり、猿の猿らしいところは、子一緒に遊ぶこと、お顔やお尻の赤いことと共に、たしかに、引掻くことです。そこで、

猿はひつかく

小松耕輔氏作曲

一、猿は ひつかく きやつくくく

眼玉 くるく

齒を むき出して

二、猿は ひつかく きやつくくく

三、猿は ひつかく きやつくくく
ぢらすな さわるな
眞似でも 撲るな

(昭和幼年唱歌第一集)

としました。第三節は、あまり訓話めいて少しく氣がさしますが、動物園の熊か何かのところには、『ステツキなぞで撲る眞似もしないで下さい』とかいてあつたと思ひます。猿も可愛がつてやらねばなりません。そのために、かくは訓話めいた結びにしたのです。恐らく此の第二節の、『足の爪長い 手の爪長い』が、この題にとつては最も主要な表現であると信じます。

世界人形行脚記 (三)

—(世界教育大會より歸りて)—

フレイベル館社長 高 市 次 郎

▽人形の國際的交換△

先年、米國から日本へ來た人形は、國際的にその交換をするといふ意味で、我が國小學校や幼稚園に配付せられて

いまでもそれ／＼保管されてあると思ひますが、當時、その人形の大部分は誠に表情がまづ／＼、以前に獨逸から輸入した陶器の頭の人形とは到底比較にならぬもので、専門のものから観ると、頭の毀れぬことは大なる特徴としなければならぬが、その大なる使命とする表情の頗る拙いことは誠に遺憾に思はれました。

それに對して、我が國小學校等から零細のおかねをあつめ、各縣から我が國獨特の日本入形、並にその附屬品の一

揃を米國に贈りました。これは皆様の御記憶に新なることゝ想ひます。その日本人形は數はすくなかつたが、頗る大きく、また立派であつて、その調度品も實に精巧を極めてゐたことは普く皆様の御承知の通りであります。

ところで、私が此のたび米國に往つてみて驚いたことはあの、表情が拙いと思つてゐたアメリカン・ドールが、意外にも頗る表情が申分なく良く、大きさも誠に多様に、且つ、其の服裝も至つてスマートに清酒のものがいろ／＼工夫されてゐることでした。以前には殆どみられなかつた團の柔かい人形(これは幼児が抱いても、その感覺が赤さんを抱つこしたやうに、誠にデリケートであります)が出來てゐるし、その眼球も、前にはその硝子のうらに印刷した

瞳を貼りつけた頗る拙いものであつたが、現今は瞳の周囲の虹彩膜の部分も、實物のやうに美しく出来てゐる眼球を入れたものを見受けます。これは、我が國では夙に私が研究して專賣特許を持つてゐる、あの獨逸式眼球と全く同様でありまして、これ等米國の人形の眼球は獨逸から輸入されたものと想像します。本誌前號に掲げました寫眞のうち第四十一頁に掲出されたものは、即ち獨逸製の美しい眼球の嵌入されたアメリカ人形で碧く澄んだ虹彩膜の奥に可愛らしい瞳が黒耀石のやうに輝いてゐます。そして胴やお尻の方が實際赤さんのやうに柔かで頗る精巧に出来てゐます。同四十頁のお人形も胴體が柔かく、實際金色の頭髮が植えられて、美しく捲いてあります。變つてゐるので面白いのは黒ン坊人形で、米國にはこの黒ン坊人形も、漆黒色の膚をしたものとやゝ淡い銅黒色した膚のものとの二種あります。これは米國に居住するニグロとアメリカ・インディアンにかたどられたものでせう。現在米國には一千萬人からのニグロ族があり、アメリカ・インディアンも約三千萬ほど居りますが、是れ等の人達が主としてこの黒ン坊人形を

好んで買つて行くのも面白いものであります。三十九頁の寫眞は黒ン坊人形のうちの肌色の淡い銅色を帯びた人形であります。

斯の如く米國の人形工業の著しい發達と長足の進歩には誠に驚いたことであります。

日本から贈つた人形は各州で大切に保存し、大抵博物館か圖書館にかざつてあるので、屢々見ましたが、着附が亂れて了つて甚だぶざまになつたものもありました。殊にデングアー市でしたか、左前に袴を合せておましたので、その土地の人に日本人の奥様に頼んで着附を直してお貰ひなさいと注意して來ましたことでありました。

▽ドール・ホスピタル△

次に人形病院に就いて申しませう。

ドール・ホスピタルは米國のみでなく、英國にもあり、各地のデパートメントストアにも、このホスピタルがあります。

人形病院では人形の部分品を賣つて居り、人形の修繕も

致します。眼球を買へばつけても呉れ、頭髮がいけなくなつたものは髪の毛をとりかへ、手の缺けたものは之を直し頭の割れたものも客の好む頭にとりかへてつけてくれる。衣裳もいろ／＼拵へてあつて、その好みに應じて選擇が出來ます。

これは教育的に觀て誠に興味あることと思ひましたが、米國の子供は自分の人形が毀れても決して捨てない、捨てることは自分の可愛いお人形が死んでしまふことになる、手、髪など、夫れぞれいけない所はこのドール・ホスピタルへ入院させて、その病氣なり怪我なりを治療し快癒させて貰はうといふことに子供は考へてます。棄てることは、『死』を意味するので、これを、どこまでも治療を、即ち修繕して病氣や怪我を全快し恢復させ、いつまでも愛撫しようとする子供の眞情は、誠に床しく思はずにはゐられません。之を修繕する所を『病院——ホスピタル』といふ、その名稱が誠に適應しいではありませんか。

▽人形による情操教育△

米國の幼い子供達は、日常、遊びに出かけるにも、お人形をたゞ玩具箱に抛りこんで置かないで、連れてゆくか、又は椅子にかけさせてお人形の玩具を興へて、お人形が遊ぶやうにして出かれます。或はお人形のベツトにねかせて玩具を興へて後遊びにゆきます。

これ等人形の爲めの玩具(玩具の玩具)も多種多様にありまして人形が入浴するバス、また小さなちいさな三筒入りの箱入石鹼、可愛いタオル、枕、寢臺、お化粧道具、鏡臺、櫛等の調度は勿論、封筒、便箋の類から、お人形の赤さんが遊ぶガラ／＼の如き、とても小さく可愛いハンドバツク、ランドセル、帽子、置ランプ、計數器など、いろ／＼の種類があります。

斯様に人形の玩具は澤山ありますが、要するに人形が玩具の主體になつて、子供達は人形をパーソニファイして、いよく生物の如く觀てゐるのであります。

一體、玩具には情操教育に關するものが割合に少いのでありますが、人形に至つては、これを中心とする遊びに於いて、各種の情操的徳目を養成することができます。子供は人形によつて親子の愛情、友愛、同情慰撫又は大切に扱ふ

習慣等、天真生無垢な感情を發露させて、知らず識らず教
育的に遊んでゐるのであります。これは子供の純情であつ
て、また實にその本
性であらうと思ひま
す。

私の孫は今年
四歳であります
が、先頃、私が
米國から買つて
來た布製のお人
形をお土産に與
へましたところ
毎日此の布製お
人形を負つたり
抱いたりして、
お守りをして遊

びに餘念がありません。自分が小用の時召使に『抱い
て、頂戴』斯ういつてお祖母アさまの御厄介になつて



人形のおもちゃ

石入箱個三、しく、ぼんた湯(りよ右下)ルソラバ(上) 廠
英、米) ドンタス氣電、器數計、みゝか手、シラブ、佛
(製獨、佛)

小用を足しながらも、一度、召使に抱ツこしてゐるお
人形を見かへるところ、明かにお人形を人間化してゐ
る様子が觀取さ
れます。

これによつてみま
すと、よい人形を與
へると、子供は之を
十分注意し大切に扱
ふ特性があります。
故に相應に、よいお
人形を與へてやるこ
とは教育上必要なこ
とと信じます。

さて、歐米各地の
玩具店やデパートへ、
いつてみると、あの
廣い玩具部を人形の棚が非常に多くを占めてゐて、各國の
お人形が澤山並んでゐる。先づ玩具部に行きますと、第一

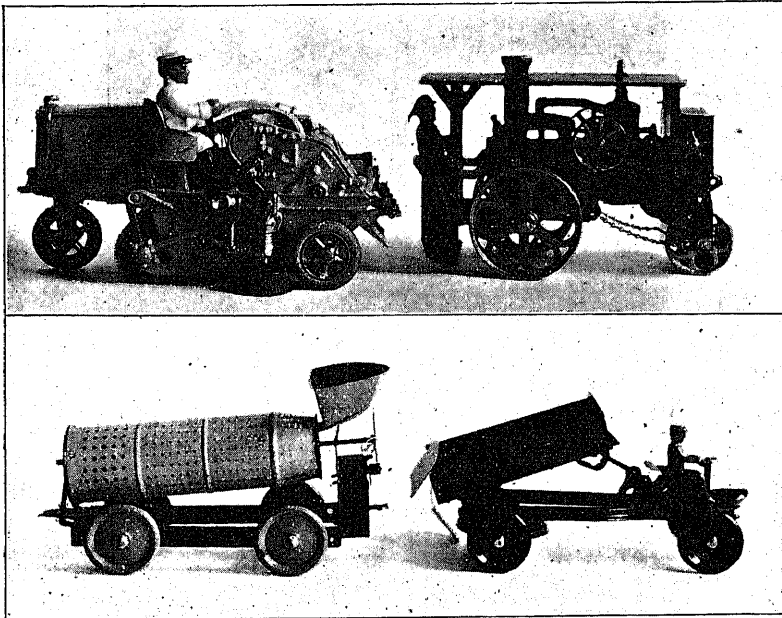
に人形をすゝめられますが、これを以て觀ても、前に述べた如く女兒は多くお人形を中心に遊びますから米國は實に人形の大消費國たる所以を如實に語つてゐると思ひます。

▽米國の玩具△

前項に述べた如く、米國は人形の消費國であると共に、また總ての玩具の非常な消費國であります。

歐洲大戰前には、獨逸から多數の玩具が米國に輸入されましたが、大戰後、國產獎勵の結果もありませうが、米國に於ける玩具の製造工業の發達は誠に目覺しいものがあります。その玩具の特徴は大體に形が大きく、頑丈なのが擧げられます。例へばゼンマイ仕掛の汽車、電車、自動車等は、日本などは鉄力で、それこそ所謂鉄力印刷を施したもので作る所でありますが、それが米國では可なり厚い鐵板で作られ、ラツカーで塗り仕上げた誠に堅牢なものが多いのであります。

歐洲から歸りの船の甲板で、五六歳の子供がゼンマイ



具玩製板鐵

機漚選(左)クツラト車覆(右下)

具玩製鐵鑄

車動自漚洗路(左)しらな道(右上)

仕掛の自動車に腰かけて、脚で蹴つて動かして遊ぶのみしたが、誠に大きく、且つ頑丈でした。よくみますと「米國製」のマークがつけてありました。

その他、米國には鑄鐵製の玩具で、頗る精巧に出来たものが多く見受けられますが、此の種の玩具は未だ我が國にはありません。是等鑄鐵製の玩具は之亦頗る頑丈なもので種類も亦、消防自動車、トラック、起重機のついた自動車、オートバイ、飛行機、土練機、印刷機、トラクタ、掘割機、勝手道具等（寫眞参照）數限りはありません。

木製の玩具にも、随分大仕掛けのものがあります。たとへば、子供は腰かけたまま、一種の桿を動かせば自動的に砂を掬ひ撃げる大掛りのものでありまして、木製玩具はその種類も頗る多いのであります。

正誤 本誌の前號第四十一頁下段に「私は名古屋の森村組と協同して云々」とありますが、これは誤りで、これは森村組が單獨に營んだもの、私は單に技師として働いたものであります。その後、私たちが有志は資本金二百萬圓を以て世界玩具株式會社を創立し、専ら人形の製造を致さんとし殆ど成立する迄に達して既に事業に着手までしてゐたものですが、かの大正九年三月の、經濟界の大變調に會し遺憾ながら中止したものであります。

人形のお家を中心として

東京女高師附屬幼稚園 菊池ふじの

人形のお家を中心として保育案を立て、見度い、とは兼ねてからの念願でありましたが、今度漸く着手して見ました。

明けて昨年の暮になります。先づ始めに、人形を求めたのでございました。そう澤山でもない、材料費から支出するとしては、かなり高價だったのでございますが、獨りでは淋しいからせめて二人は欲しいと思ひまして、揃へたのでした。今思へば、何も高價なものをおわぎ／＼求めるにも及ばなかつたのでございます。キャラコの布で縫ひ合せてその中に綿をつめ、洋服を着せ帽子を被せ、靴下、靴等を穿かせれば、店で賣つて居ります西洋人形に劣らぬもの、しかも味があり、壊れる心配の無いものが出来上つたのでございましたのに。

人形を揃へましたところ、子供達、とりわけ女の子の悦び様は、とてもお話になりません。男の子までが可愛がつて、代る／＼代り合つては抱つこをしたり、おねんねをさせたりいたします。今まできかん坊で、みんなをかれこれ指圖してゐた女の子等は、一倍お人形が好きで、今まで人を支配して居たのが、その關心の全部を擧げてお人形にそゝぎますので、その氣のつくこと、親切なこと、見て居て涙ぐまれる程で、とても今までに見られない美しい光景を現はしたのでございました。

扱て或日の午後、お歸りの時間も間もない頃私は、組の子供達みんなに向つてかう申しました。「この二人のお人形さんは姉妹で、昨日アメリカから来たはづかりです。お姉さんはメリーさんと云ひ、妹さんはマリーさんと云ふお名

まへです。お友達もまだ出来ませんし、お家ありません。おべも今着てるのだけなのです。ほんとに淋しいのですから、これからはみんなよく遊んで上げませうね。それから不自由なものを男の方も、女の方も、みんなで作つて上げませうね」と、そして「どんなものを作つて上げませう？　みなさんの拵へて上げ度いと思ふものを云つて頂戴。」すると今までお人形さんと遊んでゐて、お布團が無くつちや可愛想、と云つて居た子供達は、いち早く「お布團」と云ひ出しました。それから續いて、お机を、お椅子を、と後から後から細かいものが、いろ／＼出てまゐりましたが、なか／＼こつちの計畫にはまつてくれません。子供達にとつては初耳の計畫なのですから、豫期することちが無理なのです。で私はみんなの後に「先生はね、このお人形さん達のお家を拵へて上げ度いの」と申しますと、「そうだね、お家を拵へて上げるといゝね」と男の兒はすぐ賛成。それから私「そしてね、そのお家に、お窓をつけて、カーテンを下げませう。そのカーテンの模様はみんなを描きませうね。それからお家の床板に敷く敷物も欲しいの、そ

して敷物には、みんなで考へて何かぬひとりをいたしませうね」と云へば眼を輝やかしてきてゐたみんなはコックリとうなづく。それから又、私はつゞける「敷物が出来たら今度は、お人形さんのベットも拵へませう、それからお机もお椅子も作りませう。お家が出来たら今度はお庭の方に、お花畑も作り度いし、温室も作り度いの。それから、お馬も飼ひ度いし、豚も牛も飼ひ度いの」こゝまで云ふと、子供等の眼はいよ／＼輝いて来る。それから又つゞける、「かうしてメリーさん達のお家が出来たら、今度は、メリーさん達の買物に行く町を作り度いと思ひますね」と子供達の賛成を求めると、みんなは黙つて頭をコックリして賛意を現はす。その町に、どんなお店を作りませうか」と申しますと、今度は子供達は競つて答へる。

「おもちゃ屋」

「お菓屋」

「お薬屋」

「ラヂオ屋」

「お魚屋」

「靴屋」

「紙屋」

「お花屋」

と、なかなか、盡きさうにもない。云へるだけを云はせてポ
ールドへ列記して見たのでした。町の相談が一互り濟みま
してから、今度は、「ぢやお人形さんが町へ買物に行く時に
何に乗つて行きますか？」とききますと、男の兒等、吾
れ先きに「電車」「自動車と」答へる。「さう、その電車も
自動車も拵へませう。さういふのは男の方達一生懸命拵へ
て頂戴ね」と云へば、自信ありげな男の兒等のうなづき。
「それから、町が出来たら、今度は、町の郊外に、お人形さ
んの遊びに行く豊島園の様なものを作ります。それから
池の組でこしらへてゐらした様な水族館も作ります。森
の組でお作りになつたあの動物園も作ります。と云へ
ば之にもまた嬉しげなうなづき。

かうして、みんなと話し合つてる中、お歸りの時間がま
ゐりましたので、語り合ひは之だけにいたしました。翌朝
早く或るお母様は、お子さんを送つて見えられて、

「昨日、お幼稚園から歸りましたら、子供はあしたまで僕、
お人形さんの乗る自動車を拵へて行くお約束をしたから、
お母さん何か箱を頂戴と申します。傍で兄達がいろ／＼く
さしますので、龍太郎は嫌がり、お母様にだけ手傳つてい
たゞくと申しまして、昨夜、おそくまでかゝつて作りまし
た。と仰言つて、果實箱を利用した自動車を下さいました
のには全く恐縮いたしました。それから同じ朝、も一人のお
母様、やつぱりお子さんを送つて來られてのお話に「弘基
は、今朝まゐります時、僕は幼稚園へ行つたら大工さん
をして、お人形さんのお家を作るんだから、どうしても板を
持つて行く、と云つてきかないのでございますが、どうい
ふお話なのでございませうか」との御不審。かうなつては、
徒らに計畫にのみ耽つて、ぐづ／＼しては居られなくなり
ましたので、早速に板や柱を取り寄せて、實行に取りかゝ
つたのでございました。

× × ×

お家は、お人形のお家であると同時に、又子供達のお家
としても遊べる様にと心掛けてもくろみました。

骨組み、高さ五尺、横四尺、奥行き三、五尺、として骨になる柱を組み立てました。柱を直角に切ると云ふ事はなか／＼六ヶ敷く、こゝがうまく出来ませんでしたため、骨組みが少し曲り、ために出来上つたお家が少し傾いて居ります。計書の始めは、出来るだけ粗に、おほまかにと考へましたので、無論、かなな等をかける積りはありませんでした。

したが、子供に木を切つてもらつたり、組立てのお手傳ひをしてもらつて居ります中、二三の子供が、手にとげを刺しましたので、たつた柱の組立てにさへ、二三人の刺を見る様では、お家として出来上り、その中で毎日遊んで居る中にはどんなに澤山の子供等がとげを刺す事だらうと思ひますと、やつぱりかななをかけた方がいゝかと思はれましたので、柱も板も私共と子供達とが代り合つてかけました。幾日かの間は、お室の中は丸で、工務所の仕事場の様に、鋸屑や、かなな屑で一杯になりました。初めの中は、鋸を持つ事は持つても、丸で動かせなかつた弱々しさうな子供でも、かうして一週間か、二週間續けて居りました所、驚く程上達いたしましたして、今では一人残らず自由に切つた

り打つたり出来る様になりました。尤も大工の仕事は非常に力が要りますので、その力の續く時間は至つて僅かで、知らない人から見ではなぐさみに一寸いちつて見る程度に思はれる程でございます。こゝの仕事では、柱を切ること、かななをかける事、釘を打つこと、等を子供達に手傳つてもらひました。

床、柱の組み立てが済みますと、大急ぎで床を張りました。骨組みだけで置く事は、かなりに不安定でしたので。こゝでは床板の長さを私共が測つて線を引き、これを切る事は子供に致させました。釘を打つ事も、子供等がいたしました。

窓、窓は後と兩側の三方につけました。後ろの窓は横一、五尺、縦一、五尺とし、床から一、六尺のところにつけました。この高さは、お家として見ても釣合ひがよく、又子供を立たせて見ても、丁度いゝ鹽梅の高さを求めて定めました。この横の窓に、二枚の開き戸を蝶番で固定させてはめました。戸は硝子をはめた様な形にしようともくろみ、据ゑ付け前に鋸ミシンで窓枠だけ（板が脆いので、枠は割合

に幅廣くを殘して切り取りました。それから兩側の窓、之も床から一、六尺のところにし、横は柱と柱の間全部を開き、縦は一、五尺といたしました。横はやつぱり、硝子のはまる様に窓枠だけを残してくり抜いた戸を二枚蝶番で止めて開き戸といたしました。それから正面玄關の方は左の柱右の柱各々に一尺位の板を打ちつけ、この板に二枚の開き戸を蝶番で留めて玄關の戸といたしました。この玄關の戸には、中央より少し高い所（やはり之も子供が立つて外を見られる位置）に硝子をはめられる様に、梯形の裝飾兼窓と云つた様のもので作りました。この戸には、ハンドルを兩方につけました。窓は硝子をはめる程の頑丈な戸でもなし、又硝子は危なうございます故、セロハンを張つて見ました。すると子供達は窓が張られた嬉しさに、誰もが一應は觸つて見、その上、とんとんとと打つて見てよろこんで居ります中、あつちが破け、こつちが弛みして、大變に貧弱な姿になつてしまひましたので、このお家に心を止めて下さつた先生方の智慧も拜借して、今度は、人力車の前に張られてあるセルロイドの厚い方のものを、フレイベル館に採

して貰つて之を張りました。今度も亦、子供等は、好奇心からかなり觸つて見たり、たゞいて見たりいたしますが、只今のところ無事でございます。それから子供はよく鍵をかける事が好きだからと思ひまして、どの窓へも、玄關の戸へも、内から鍵をかけられる様に、金具をつけました。こゝの仕事では、窓をくり抜く事も、硝子を張る事も、一寸小細工な、又、安材木だけに、もろくて細心の注意の要る所でしたので、子供達には、戸をはめる時の蝶番のねじ鉋を、止めてもらつた位に過ぎません。でも子供等は、ねじ廻しを使ふのが一寸變つた仕事でしたので、競つて手傳ひ、又、案内上手に、ねじ廻しをまはして止めて居りました。尤も、鉋を止める穴等は、私共が豫め金具に合せてきりで穴をあけて置いたのではございますが。

壁、この家には壁と云ふものはありません。普通、壁である部分は、みんな横に板を張つて壁の代りにいたしました。板の長さを標する事は私共がいたしました。板を切ることに、打ちつける事は子供達でいたしました。一人が釘を打つ、他の二人位は、板を押へて助けて上げる。次ぎに

この人達が代る／＼釘を打つたり、板を押へたりし合ふ嬉しげな顔、見て居る私までがたまらなく、嬉しくなるのでした。

天井、お家の安定のためには思つて、後へ後へと天井張りを残して置きましたところ、床板が張られた頃から、天井の無いお家は變だ變だと、子供達が語り合つてゐました。そして私に向つて、早く天井を張つて頂戴、とせがむのでした。こゝは子供達の届かない所ですので、板の切り方だけを子供達に手傳つてもらつて、出來た板を私達で、さつさと張つてしまひました。

かうして一通りの極く雑なお家が出來上りましたが、人形と比べてあんまり隔り過ぎて居りますので、一寸考へさせられました、お人形は綺麗なお洋服を着た、可愛いらしいお人形ですし、お家は片面だけ、かんなかゝつた極くとげ／＼しいお家でしたので、で、お家の外側は何かで塗つて見やう、内側は壁紙を貼らう、と決めまして、塗料や、壁紙の研究にとりかゝつて見ました。

塗り方、塗料に就いて何等の豫備知識も持つて居りませ

ず、たか／＼、エナメル、泥繪具位しか知らなかつたのでしたが、この大きなお家をエナメルでは、乾きも悪いし、とてもやりきれないと思ひまして、せい／＼ペンキ位のところに見當をつけて、實際塗料屋について當つて見ましたところ、ペンキも乾きがあまり思ふ様でもなく、又エナメルよりはお安くつきますが、それにしてもなか／＼廉價にと云ふ段にまゐりませず、當惑いたして居りましたところ、塗料屋の申しますに、マンノールと云ふものがあつて、之はぬるま湯で溶いて一二時間も涸らして用ひますと、二時間位ですつかり乾き、色もつかず重寶だと教へてくれました。そしてそれ位の大きさのお家なら、五十錢の袋一つで充分だと申添へてくれましたので、之を一ツ試して見る事にいたしました。マンノールは粉状で、色も種々ありますが、強烈な色のもは無く、みんな胡粉のは入つた様な、やはらかいノーブルな色ばかりです。扱て、どういふ色合にしたらいゝものかと困つて居りました所、「この家は、全く現實味のない、フェアリーの住む様なフアンシアブルなものにするといゝ」と、倉橋先生が仰言つて下さいましたので、

くなりました。

このお言葉にヒントを得、又他の先生方にも見て頂いて、外はクリーム色、窓枠は水色（胡粉のは入った）にいたしました。かうして塗り始めたのでございますが、塗る事は、子供達は大變によろこびました。塗り度い塗りたい、塗らせて、塗らせてと云ふ聲の中にまた、く間に塗れてしまひました。成程二時間も経たない中によく乾き、一見、乾いたあとでも着物につきそうな様子ですけど、ちつともつきません。玄關の戸も、お家の中の天井もクリームで塗りまりました。かうなりましたら今度は、早く壁紙が貼つて見度くなりました。

壁紙、壁紙の見本を取つて、この家にそぐふ様な模様、色合のを選びました。壁紙の實際研究では、紙質、模様、色合の多種多様あること、それよりも、壁紙を貼る前に、下張りをするものと云ふ事を學びました。下張りの紙は、茶色でよく包み紙等に用ひるあの丈夫なのを二重位貼りしました。こゝでは、子供等は下張りを手傳ひ、上張りは、手際を要しますので私共でいたしました。かうなつてまゐりますと今度は、一日も早く、カーテンとカーベツトが欲し

カーテン、布地は、山の組でアルバムに用ひてゐられた、あの生金巾と云ふのが適當と思ひ、之を求めて、之にユーゼンクレヨンで模様を描がせ、濡れ布の上からアイロンをかけて、（大きいものは蒸す。かうすると色もほんたうの色が出てまゐりますし、洗つても落ちません）ほんたうの色を出し、周りにミシンをかけ、かんをつけ、カーテン棒に通して出来上りいたしました。カーテンもカーベツトも、このお家にとりかゝつた直後から、とりかゝつて居りました。始めは、何等か子供等の描くものからヒントを得やうとして、「お家のカーテンにしますから、模様を考へて描いて頂戴」と申しまして、カーテン大の模造紙に、男の兒、女の兒共同で描いて見て貰ひましたが、みんな思ひ／＼の繪を描いて、纏りも連絡も見られませんでした。之も子供らしくていゝかとも思ひましたが、その中、いゝ模様を思ひ當りましたので、その繪を見せ、一單位づつを子供等に描いてもらつて、全部のカーテンを描きました。兩側と後ろの窓と三枚のカーテンですので、之を一人残らず執筆い

たしたわけです。海底の、昆布や、わかめ、の繁つてる中を、黄色と赤のお魚が泡をふきく、泳いでる模様です。一番底の岩には、うにが、澤山ついてゐます。

カーベツト、地はズツク。でも生地のみではひき立ちませんので、海の組でいつもしてゐらつしやる様に、澁を塗つて、茶ツぼく、しまつた地色にいたしました。これの模様も初めは、子供達の描くものからヒントを得やうとして見ましたが、カーテンの時と同様の有様で、その中また、いつか見た氣に入つた模様を思ひ出しましたので、この事を子供等に話して諒解を求めたのです。繪は、カタツムリが草の中を這つてる繪なのです。毛糸で輪廓を縫ひ出しただけではあまり印象的ではありませんので、草もカタツムリも、草はオリーブ色の布でカタツムリは黄色の布で輪廓を切り取り、之をズツクの上に置いて、その上から、カタツムリは黒色の毛糸で輪廓を縫ひ出し、(兼、布をおさへるわけにもなりますが)草は、布地のオリーブ色で縫ひ出しました。つまり、ズツクの周圍に草を配り、その上を色々、の形の(子供によつて形が違ひましたので)カタツムリが、

這つてゐる模様なのでございます。こゝの縫ひとりは全部の子供がいたしました。多い人は十回以上、少い人では四五回は針を持つたでせう。かへし針で、草や、カタツムリをおさへたものですから、之をいたします時は、針の運びと、布をはずさずに抑へるといふ兩方の働きを兼ねなければなりませんので子供達は、かなり緊張した様子でした。一度教へて上げればよく呑み込んで、二針三針目頃からは獨りでどんく縫つて行く子供もあれば、また、幾度教へても、針が進むどころか、見當もつかない方へ飛ぶ様な子もありまして、なか／＼思ふ様にはかどりません。かうして、漸く出来上つた敷物を、釘鋸で、床に打ちつけて止めました。かうして一通り出来ましたお家を、「よくなつたわね、よくなつたわね」と云ひながら、傍らで黙つて見入つてる子供達を相手に、飽かず眺めて居ります所へ、お通りがかりに倉橋先生が、お出で下すつて、「あゝこの家にストープがあるといふな、それから、實際の連絡は無くとも、煙突も立つといふ」と仰言つて下さいましたので、成程と氣がついて、正面後側の窓下に、ストープを拵へま

した。

ストーブ、木で、ファイヤープレースの恰好の枠を作り向側に火の盛に燃へてゐる繪を描いて（破れぬ様、カンレイヤに描く）貼り付け、窓の下にはめ込みました。枠の木は、煉瓦の様に塗りました。石炭入れも、火箸も、十能も子供と私共とで作りました。ストーブを置きましたところ、大變に暖か味が出来て、氣持よくなりました。

煙突、木で作り、煉瓦の様に採色いたしました。之も子供等が喜んで釘を打ち、授色を手傳ひました。煙突の穴からは煙を出しました。（綿を墨で塗つて）

バルコニー、口繪の寫真で見られます様なバルコニーを乗せました。之もクリーム色に塗りました。之が出来ましたところ、子供達は一層珍しさうに、入りかはり立ちかはり眺めて、にこ／＼して居りました。そして、こゝへ昇る梯子があるといふな、と申出て来る人もございます。それから、上はどうなつてるか見せて呉れと、抱つこして貰ひに来る人もあつたり、このバルコニーは子供達には、異様の興味を惹きました。家の恰好も、之が出来たために、大

變によくくなりました。

家具、ベット、お人形を求めますと直ぐ、「おふとんが無くちや」と子供も申しましたので、とりあへずお布團を作りました。お布團は出来上つたのですが、寝かす場所が思ふ様でありませんでしたので、何は無くとも先づベットをと思ひ、お家作りにとりかゝるとすぐ、ベットの製作にもとりかゝつたのでございました。口繪で御覽いたゞけます様な形でございます。プランも鋸ミシンも私ども。釘を打つ事、塗る事をよろこんで子供達がいたしました。色は胡粉のは入つた薄綠色です。お家の中の色の釣合ひを考へて、この色を選びました。お人形が二人ですから二つ拵へました。

椅子、テーブル、椅子は、或る小冊子で見た兎のお椅子にいたしました。板に兎の繪を描き、鋸ミシンでこの繪の通りにひき切ります。この二板の兎を兩臂にし、腰かけと、脊とを切つて適

當の廣さにして打ちつけました。全體の色をクリーム、脊の下方に、緑で草を生やしました。兎の耳の眞中の線と、眼とは、眞赤なエナメルを塗りました。テーブルは、一枚板に、板を十字に組み合した脚をつけた極く簡單なものです。テーブルの上はクリームと緑の染め分け、脚の部に兎の耳を思はせる様な薄緑の模様を染め入れて、お椅子と揃ひにいたしました。

スタンド

口繪で見えていたぐけます様な形のスタンドを拵へました。クリームと緑の染めわけです。電池を備へて、電球もつけられる様にいたしました。實際に電燈がつくのですから、子供達、とりわけ男の子の悦び様は、たとへ様もありません。あまりの珍しさに、時々スタンドの生存が危ぶまれますので、電池を外づしてかくす事も度々です。この他、ラヂオも、電話もと思ひましたが、家の中が狭くなりましたし、その時もなくてまだ無しで居ります。

ポスト、眞赤な郵便受函も出来て、お玄關の所にかけて

ございます。英語が得意で、いつもアルファベットをポールドへ書いてる子供にレタースと書いて貰ひました。之が大變嬉しくて、時々繪を描いたり、字を書いたりしてこの中に入れて居ります。

只今漸くこゝまで出来上りました。三學期は殆んどこの製作を中心に過してまゐりましたし、又子供達は出来ぬ前から毎日このお家を中心に遊んでまゐりました。

「私は大工でございます。今日はお宅のお窓を打ちつけにまゐりました。」とか「私は左官でございます。お宅の壁を貼りにまゐりました」とか云ふ口上で、お家の中で遊んでる子供達を外へ出して、仕事を進めた事が幾度でございましたでせう。お家の出来上りました今日は、口繪の寫眞の様に男の兒も女の子も、このお家につづけて、おごさを引いたり、お椅子を並べたりして、このお家を中心にして遊んでゐます。お外へ出る事が少くて困る程でございますが、やがてはまた飽きる時も來やうとそのまゝにしてまゐりま

した。他の組の御子さんまでが時々は入つて来ては、「よく出来たね、これバルコニーかい」等と云ひながら前から後から飽かず眺めてくれる姿を見ますと、たまらなく嬉しく思ひます。或日の午前中は、林の組の方がみんなでお家には入り込んで遊んで行く時があります。又或日の午後には海の組の方がこの中で遊んで過すと云ふ風で、之を見ますと、ほんとに作りがひがあつたと今更の様に嬉しく思ひます。併し初めの計畫から云へば、まだ、ほんのお人形さんのお家が出来たに過ぎません。之から、前申述べた様にこのお家の花畑、温室、菜畑、庭木、等を入れ、又屋敷の一隅には、馬小舎、豚小屋等をも加へて、柵を廻し、一方に町を作り、動物園を作り、遊園地も加へ水族館も作り度い考です。更に電車も自動車も拵へてほんとに子供が乗つて歩ける様にし度いと思つて居ります。この企ての出来上りますのはおそらく、來年の三学期にもなるかと思はれます。このお家を中心に、之等のものゝ揃つた光景を思ひ浮べますと、嬉しさに胸が躍ります。併し茲で、私が自身にたしなめて居ります事は、作ることの面白さ出来上りの喜び

に、ともすれば、一人としての子供を見逃し勝ちであると云ふ事です。殊にもこの四月からは年長組として、小學校への入學を控へて居ります子供達故、夢々この缺點に陥らぬ様心してこの計畫を進めて行き度いと思つて居ります。之が、とりもなほさず私の本年度に於ける製作上の主な計畫なのでございます。

優良農村託児所 朝日新聞社會事業園より 助成金などを贈呈

朝日新聞社會事業園は昭和四年以來地方農漁村の児童保護事業の一として農繁期託児所の普及と發達とを奨励せんがため、府縣當局の推奨にかゝる成績優良なるものに對し助成金並に『慈愛旗』を贈呈したのであるが、最近當局者初め讀者の熱心なる唱道と相まつて著しい普及及び振りを見せ、今や全國においてその數三千余を算ふるに至り、そのうちには常設的に、或は児童保護を中心とする隣保事業にまで手を延ばしてゐるものもある、かくて農家においては能率を高めるのみならず自治、共同、融和の精神が實際的に喚起せられ、もつとも時宜に適する農村社會事業となつてゐる、本年度から東日本をも加へ、全國各府縣當局並に本社各通信局部の手により精査をとげた結果二百四十九ヶ所を選び表彰狀に添へて助成金と大慈愛旗一流を贈呈すると。

保育そのとき

倉橋 生

一、子供を出来るだけ日光にあてやう。殊に都會の幼稚園では、必須の法規としてもいゝ位だ。時は五月、その最旺季。

一、午前室内、午後室外。どこに、そんな規則がある。午前の空気が午後より清く、午前の日光が午後より強いのは誰れも知つてゐることだ。朝寒の冬なら別のこと、今は初夏の朝だ。

一、保育項目は室内、室外は自由あそび、そんな規則もどこにある。椅子がありませんからつて。机がありませんからつて。樂器がありませんからつて。——一里も離れ

てゐる遠い野原へ運ぶのじやあなしお部屋からお庭へ、さつさと持ち出せ。

一、野山がきれいになると、庭の花壇が氣になる。春にこのこされた花壇が。

一、「今日になりて菊つくらうと思ひけり」といふ古句がある。今日になりてチューリップを植えやうと思ひけりといった名句も澤山出來さうだ。しかし、濟んだことは仕方がない。その悔をダリヤに繰りかへさないことだ。

一、身體検査は調査のためでも、統計のためでもない。その子のためだ。家庭へ徹底しない身體調査は魂のない身體検査だ。

一、擔任保姆は毎々その身體検査掛だ。

一、新入園児の家庭が、そろ／＼、初めの熱心を怠りかける頃だ。

花壇並に花壇用草花年中行事

—(五) 月—

日比谷公園花壇掛 富 本 光 郎

朝顔の播種

朝顔の播種は今月十日前後を適期とする。蔓性のものであるから模様花壇等には向かないがアーチ、パーゴラ或は垣根等からませて夏の涼味をそよる花物として少しでも用意しておきたいものである。

深さ二寸五分位の箱蒔きとし發芽すれば一旦徑三寸五分位の鉢植として灌水を控へ太くしまつた苗に仕立てる様に心掛け此鉢に根が十分張つてから(其頃は本葉五、六枚になつてゐる)花壇に植出す様にする。

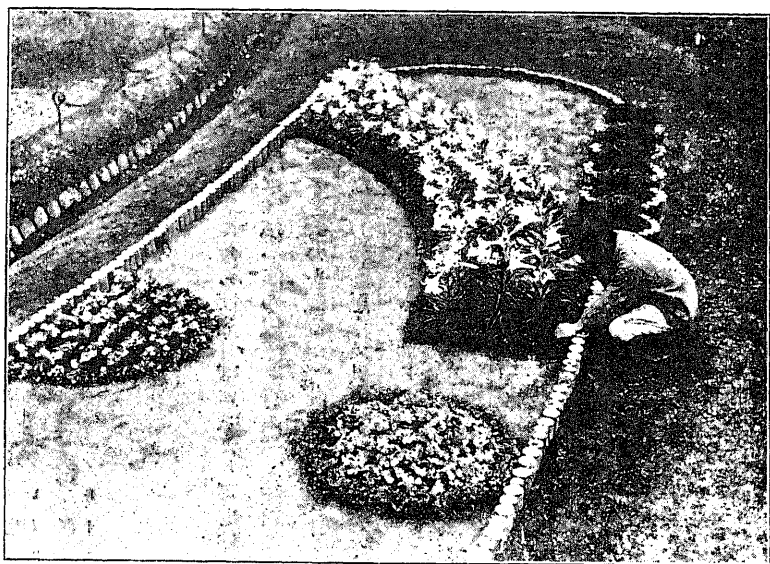
此の如くにして育てたものは極くしつかりとした苗となり蔓もひどく伸長せず地へ下してから十分肥料を施せば鉢

で下手に作つたよりはすつと出來のよいのびくとした大花を開くものでこれが一面に咲いた時の夏の朝の眺めはすばらしいものである。

初夏の花壇の植付開始

トリテリヤ、シレネ、ストツク、シネラリヤ、ポリアンサス、等春咲の草花で比較的開花期の短いものは今月中旬には花を終り其他のものも下旬に入れば花數も少なくなり形も亂れて來るから花の濟んだものから順次抜き取つて次の如き初夏に咲くものと植換を行ふ、

(但しクロツカス、ヒヤシンス、チウリツブ、アネモネ水仙等の球根類は花が濟んだからとて直ぐ抜き取ると球



壇花の夏初たしと主を合百砲鐵

の勢力が衰へるものであるから之等は少し花壇の體裁が悪く共結實せしめない様花梗は切り去り葉が黄褐色になる六月中旬頃までその儘置いて十分球根に營養分を吸収して充實せしめておく

初夏の花壇用草花

丈七寸——一尺二、三寸位のもの

▼ガレット——宿根草(冬はフレイム内)——秋 挿 芽

鐵砲百合——球 根 ——新 植 付

美女——櫻——宿根草(冬はフレイム内)——秋 挿 芽又は播種

フロックス——二年草 ——秋 播 種

ビスカリヤ——二年草 ——同

金 魚 ——宿根草(東京附近ニシテ)——同

矮性金蓮花——一年草 ——春 同

丈五寸前後のもの

姫松葉蘭宿——根草草(冬ハフレイム内)——秋 挿 芽

ペゴニヤ、セン——宿根草(冬ハフレイム内)——秋 挿 芽又は播種

ロベリヤ——二年草

カンゲヌラ——宿根草(冬はフレイム内)
 カーパーチカ——宿根草(冬はフレイム内)

秋播種
 フレイム内

秋播種
 フレイム内

春蒔草花苗の假植

彼岸前後に播いたものならば先月下旬頃より可成伸長して来るから一旦床にて第一回の假植を行ふ。(種類によりもつと早く假植すべきものもあるが)此假植が後れるとひよろ／＼した苗になつて形も悪く又風に倒れ易い弱い苗となるから出来る丈早く行ふべきである。

前にも書いた様に花壇用草花は大きくなつてから花壇に定植するものであるから其時植傷みしない様二回以上の假植が必要で十分に細根を發生せしめるため假植床をよく耕転し土を細かく碎いてやる様にすると十分日財をよくして上へ伸びるよりは葉張を十分にするため種類にもよるが株間を十分にとつておく様心掛くべきである。

アルターナンセラの準備

アルターナンセラは秋の模様花壇には是非なくてはならぬ観葉宿根草でこれがなくては秋の花壇は出来ないと言はれる位必要なものである。

現在日本には五種類ばかり栽培せられ草丈は三、四寸、色は紅紫、紅橙、橙褐、黄褐黄等で葉は細かく密生し時々剪定によつて整然とした形に仕立てられ花壇の縁取りとしても又大面積の花壇に極めて精巧な模様を出すにも或は巾二尺位の細長い花壇にも葉の細かい種類を使へば充分面白い模様が現はせる極めて便利なものである。

此ものゝ欠點は冬寒さに弱いこと、華氏五〇度以上の温度を常に保たしめないと枯損するものであるから温室にて保護しなければならぬ事である。

然し一旦春まで越すと一株から非常に多くの苗が得られ短期間に容易に繁殖することが出来る。

簡単にこれの繁殖法を記して見ると本月上旬頃フレイムの中よく肥沃な土を入れて床を造り温室から出して植えて置く。其後温度の上るに従つて新芽をふいて来るからその芽をフレイム内又は露地にて砂質壤土に挿芽すれば殆ど百

發育中に活着するので此時大體一株より十五乃至二〇芽をとることが出来る。

又芽をとつた古株は十日ばかり其儘にしておくと新芽をふいて来るから之を十株位に分けて露地に植出すことにすればこれで昨年の一株より約三〇株に殖えた割合となる。

挿芽したものも六月十日頃までには十分根を下すからこれはよく耕した床に植付けてやる。

此の如くにして此三〇株は七月中旬には皆各々二株宛に株分する事が出来るに至り六〇株となる。之等を一週間に一回位の割合にて十分液肥を施せば極めて成長早く八月中旬に今一回株分すれば一二〇株を得られる譯でこれは八月下旬より九月上旬にかけて花壇に定植することが出来る程度に育つものである。

つまり前年温室に十株保護して置けば今秋は優に千二百株に繁殖し得るもので栽培は極めて容易なものである。

尙これを作る上に注意すべきは形をよくするために時々剪定すること、一週間毎位に怠らず、肥料を施すことである。

其他の作業

一、何よりも花壇をきたなく見せるのは雑草であるから常に怠らず抜き取ること。

一、病害蟲が猛烈に發生し繁殖する時期であるから常に心掛けてその種類により適當なる薬剤にて驅除豫防をなし或は捕殺する。

一、下旬頃にはダリヤは一尺位に成長するから風に倒されない様早く支柱立をなす。

一、牡丹は花の濟んだ下旬より來月初旬にかけて株の周りを浅く掘り、人糞尿又は油粕其他の液肥を一回施しておく。之は花後の衰へを回復せしめ又夏の間の養ひ料とせんがためである。

園藝曆 (五月阜月) 大岩金

八十八夜 二日頃
 氣節 立夏 六日頃
 小満 廿二日

觀賞

花園の美はおそらく本月が最高であらうと思はれます。前月の球根草花の開花の多かつたのに次いで今月は秋時の二年草や宿根草が多いのであります。草花の名稱は便覽にゆづり木物の主なものをあげますれば牡丹、藤、バラ、エニシダ、シヤクナゲ、ツ、ヂ、八重山吹などであります

仕事

一、繁殖種

大方のものは三月、四月のうちに播種を終りますが朝顔は普通八十八夜の前後に播く事になつて居ります。是は寒さに弱くしばらく早播にすぎで失敗する事があるのであります。

口、挿木

ゼラニウム、カトネーション、ダリーヤ、菊などの挿木が出来るやうになります。活着のよびのは川砂を用いた場合でありますがこの時には肥料分を含んで居りませんから發根しましたならばなるべく早く培養土に移植してやる事でありませぬ。

ゼラニウムを挿木するには他の草花類と趣を異にしま

して切口は半日位乾かしまして後砂なり畑になり挿すの
あります、従つて挿木して後も他のもの程に度々灌水をし
ない方が却つてよく活着致します。

二、移植、定植及び間引

前月に播種しました草花類や蔬菜類が本葉四、五枚出ま
したならば夫々移植又は定植しなければなりません。

朝顔の移植は他のものよりも早く本葉の出ないうちに行
ふのであります。

蔬菜類中移植をするものは萬苳、紫蘇等であり間引をす
るものは廿日大根、ビートなどであります。

三、その他の仕事

雑草取り、蟲取りなどは、いつにかはらず注意致しませ
う。

球根類の開花の終つたものは結實させないやうに花軸を
折つておきます。總べて種子の必要のないものは花がおは
ればなるべく早く折りとつた方が草の爲によいのでありま
す。

四、收穫

花作りのかたはらに作つた蔬菜がそろそろ收穫出来るや
うになりました。眞赤に熟した草苺、青い豌豆の軟莢、莖
荷の白い軟莢、勢よく茂つた恭菜等いづれも人の食べる爲
に作つたわけではありませんがまづよろこぶものは小鳥か
ら子供達のおまゝごとの材料尙餘れば子供に分ち新鮮味を
賞味するのも結構であります。不出来な中にも自分達の
手になつたものを收穫する程うれしい事は他に多くはある
まいと思ひます。

母をたふ

——五月八日の『母の日』——

東京市、全国母の會等の主催にかゝる『母の日』大會が八
日午後一時より日比谷公會堂で開かれた、會衆三千人、流石
に女と子供が多数を占めた、開會冒頭司會者立大教授村尾昇
一氏はカーネーションの花それぞれ一籠を皇后、皇太后兩陛
下に献上する旨を報告し直に藤岡市社會教育課長及びアレキ
サンダー女史は花籠を捧げて宮内省に出頭、献上の手續きを
終り兩陛下にはこれを御嘉納あらせられた、一方會場では合
唱、獨唱、舞踊、演説に母をほめちぎつて同三時閉會、それ
より一同小雨中を街頭行進を開始し銀座を廻つて『母の日』
の歌を歌ひながら二重橋前に至つて三陛下の萬歳を三唱して
四時半會を終つた。

オニゴツコ

日本教育音楽協會編

♩ = 120

オツカケルミ オツカケオツカケ
オニサンオイデヨ

オニゴツコ オニハノヒマハリ
コツチヂス オニハノマツノミ

ヒトマハリ ソラニゲヨウ
マタマハル

オニゴツコ

土川五郎振

オツカケル……左向き二歩駈足（上體を少しく前にかけ 足を
後ろへ跳ね上げる如くして）

ヨ……左足一步前にふみ出し兩掌を向ふにむけたる兩手を前に

平らに突き出す（少しく斜左前に）

オツカケル……前と同じく二歩駈足（右足から）

ヨ……右足一步前にふみ出し兩手を前の如く突き出す

オツカケオツカケ……四步駈足

オニ……左足一步前に胸を右に向け左肩を下けて上體を左に傾

け 兩拳を軽く握り胸の處に持ち來りて兩腕を左右に少しく

開く（兩拳を下ぐるこゝこなく）

ゴツ……………兩脇を元へ戻さず(兩拳が胸の前で少しく交叉する)

コ……………兩脇をまた再び開く

オニハノヒマハリ……………全生連手して左へスキップ四歩

ヒトマハリ……………左足を右足の右へ送りて一廻轉して正面に向き「リ」にて拍手一回す

ソラニゲヨウ……………全生正面となりて左肩を下け左方へ顔を向けて右の方へ右足より三歩行きて止まる

ソラニゲヨウ……………又同じく右へ三歩行く

オニサン……………左向きをなし拍手一回

オイデヨ……………兩手を高くあげて鬼を招く如くするここ二回

コツチデ……………左足一步後ろへ兩膝を曲けて兩手を兩もゝの上におき中かがみとなり鬼を見る様になす

ス……………右足を引き兩膝をまげ中かがみとなりて鬼を見る(二歩あきさがりをなす)

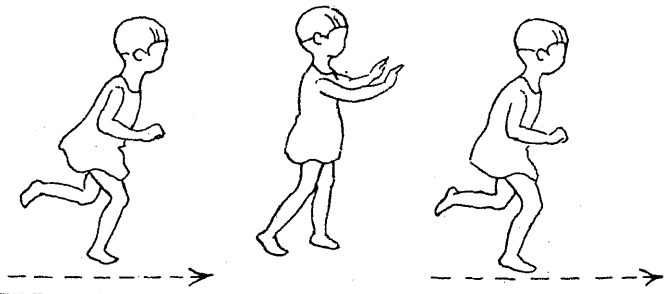
オニハノマツノキ……………全生正面となり連手して右へスキップ四歩

マタマハル……………左足を右足の右へ送り右廻轉して正面となり「ル」にて拍手一回

ルケカツオ

ヨ

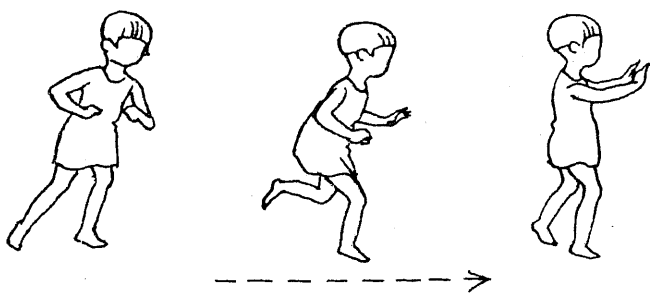
ルケカツオ



ニオ

ケカツオケカツオ

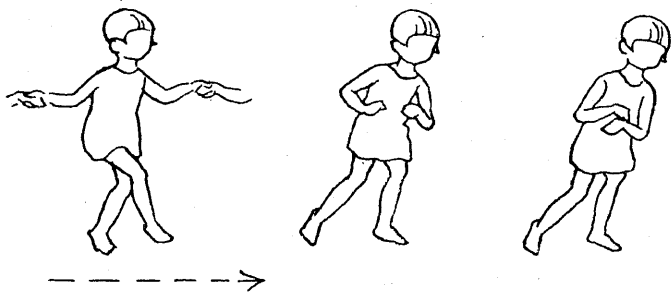
ヨ



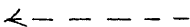
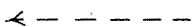
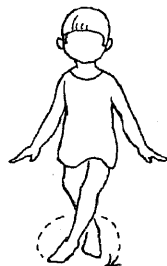
リハマヒノハニオ

コ

ツゴ



ウヨゲニラソ ウヨゲニラソ リハマトヒ



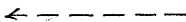
デチツコ

ヨデイオ

ンサニオ



ルハマタマ キノツマノハニオ ス



SINKITI

稟

告

定規文注

一、幼稚園及び小學校、家庭、育児、看護等に關する論說調査研究等の寄稿を歓迎いたします。

一、寄稿は一行二十四字詰に記して下さい。但改行は一字下げること、また句讀點は一字あけること。

一、寄稿竝に本誌の編輯に關する通信、紹介及び寄贈の新刊書、交換雜誌、入會手續、更に

本誌の購讀及び廣告に關する通信竝に照會等一切左記編輯兼發行所宛に願ひます。

東京女子高等師範學校附屬幼稚園内

日本幼稚園協會

一、本誌御注文の方は凡て前金(郵税共)で願ひます。(郵券代用の場合には總て一割増)

一、御送金の場合にはなるべく振替貯金で振替口座東京一七二六六番日本幼稚園協會宛に願ひます。

一、送金の節には第何巻第何月號より第何月號迄と明記せられたし。

一、本誌の代金に對しては別に領收證を差出しません。特に御入用の方は往復はがきで御申越を願ひます。

一、會費切又は前金切の際にはその最終發送の雜誌の帯封に「前金切」の印章を押捺いたしますから其節は早速御送金を願ひます。

一、本誌の見本御入用の場合には前金參拾五錢發送を願ひます。

價定

| | | |
|--------|--------|------|
| 一ヶ月分一册 | 金參拾五錢 | 送料壹錢 |
| 半ヶ年分六册 | 金貳圓拾錢 | 送料共 |
| 一ヶ年拾貳册 | 金四圓貳拾錢 | 送料共 |

(外國行郵税は一部金拾貳錢の割にて御拂込下さい)

昭和七年五月十二日印刷納本
昭和七年五月十五日發行

幼兒の教育 第三十二卷 第五號

不許複製 禁止转载

編輯兼發行所 倉橋惣三

東京女子高等師範學校附屬幼稚園内
東京市本郷區駒込林町百七十二番地

印刷者 柴山則常

東京市本郷區駒込林町百七十二番地

印刷所 合資杏林舎

發行所 日本幼稚園協會

東京女子高等師範學校附屬幼稚園内
振替口座東京一七二六六番

廣告

| | |
|-------------|------------|
| 特等面一頁 金參拾圓 | 二等面一頁 金貳拾圓 |
| 一等面一頁 金貳拾五圓 | 一頁以下御断 |

神田區南甲賀町八品田奥松に御申込下さい。

廣島大學 文藝科 教授 久保良英 著

現代心理學叢書

第二編

精神分析學

新刊

心理學の分野に於ても我等に最も興味深きものは精神分析學である。のみならず之れが應用的方面に於ては殆んど無盡藏と謂ふべく少くとも形而上の諸科學の中に在つては第一位にある。猶殊に最近斯學が教育界に齎した影響の甚大さは特筆すべきもので性教育の根本的解決などに付ても精神分析法を他にしては殆んど不可能とせられて居る。久保博士は常に我心理學界に最新の智識を取入れ又新しき方途を創造して學界の啓發に餘念なき人、即ち精神分析學に最も新しき色彩を添へ既往先人の研究をより深く掘鑿して其の全般を説き更に應用的方面を懇切指導す、一般心理學徒は勿論學校教育家他總ての文化人の必讀を乞ふ。

第二編 形態心理學

菊判洋綴一冊 定價三圓五十錢 送料十八錢

形態心理學の出現と共に心理學界は大センセーションを捲き起して居る。實に我邦に於る最初の形態心理學書。

第三編 人格心理學

近刊 第五編

精神派心理學 近刊

第四編 行動心理學

近刊 第六編

性格學と筆蹟學 近刊

廣島文理科 大學教授 文學博士 久保良英先生著

實驗心理學精義

菊判紙數八百頁・挿圖貳百 定價金六圓全錢送料金廿七錢

好評

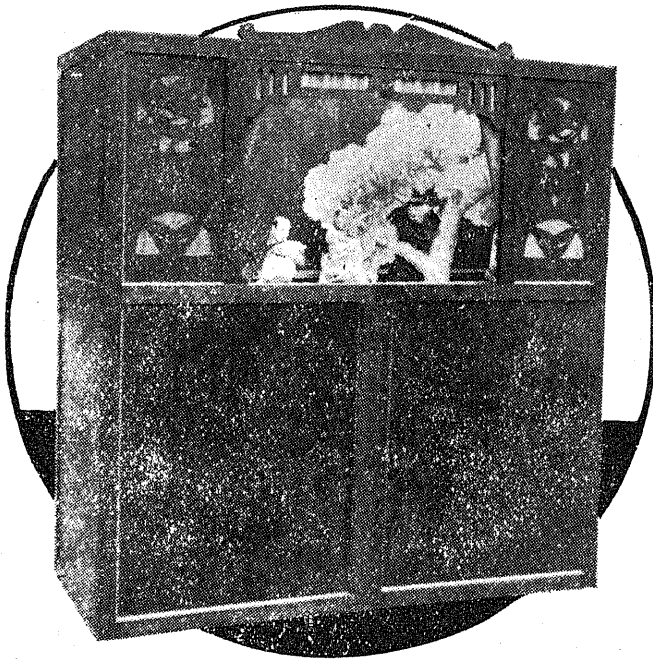
實驗心理學の檢討に餘念なき著者は前篇簡單なる行動論、後篇複雜なる行動論を著しその編纂方法は質的及量的兩者交互に説教し未決の問題は之れを未決の問題として貽し、且つその結果相背馳せるものに對しては決して獨斷的私見を取らず、終始一貫純正なる學者的立場より世界の心理學者が開拓せし所、又はせんとする所を周到懇切に詳述せるものなるを以て書中最新學說の充滿せる事は言を俟たず。

菊判洋綴一冊 定價三圓五十錢 送料十八錢

發行所 東京市牛込區 中野文庫書店 電話 三三三 八二七

お整ひですか、

御園の御設備は？



(圖八二) 台舞居芝形人

新しい御豫算のもこに、お安く、丈夫に、
保育用品の御設備を遊ばす絶好期、ご申す
のは、

一般の原料、工賃が下落したまゝに
而も、多量生産による合理的低價で

御用命に應じられますから。さてその品
々は

- ◇波動廻轉塔……………八〇圓
- ◇メリーゴーラウンド……………八八圓
- ◇太鼓梯子……………四〇圓
- ◇スモール・セット……………三二圓
- ◇大型二十人乗シーソー……………七〇圓
- ◇箱積木……………一八〇圓
- ◇ヒル氏積木……………一三五圓
- ◇コンビネーション運動具……………八五圓
- ◇梓登り……………一五圓
- ◇鐵製二人乗ブランコ……………五五圓
- ◇大型鐵道滑り臺……………一五圓
- ◇樂隊あそび……………八圓
- ◇人形芝居用舞台・人形一揃……………四七圓
- ◇子供の家(社會遊び)……………一七圓

株式會社 貝レール館

東京神田區教育會館内 電話九段三三(ニ) 丸二(測註專用) 振替東京一八

昭和四年五月十五日第三種郵便物認可
(毎月一回十五日發行)

昭和七年五月十二日印刷納本
昭和七年五月十五日發行

定價三十五錢